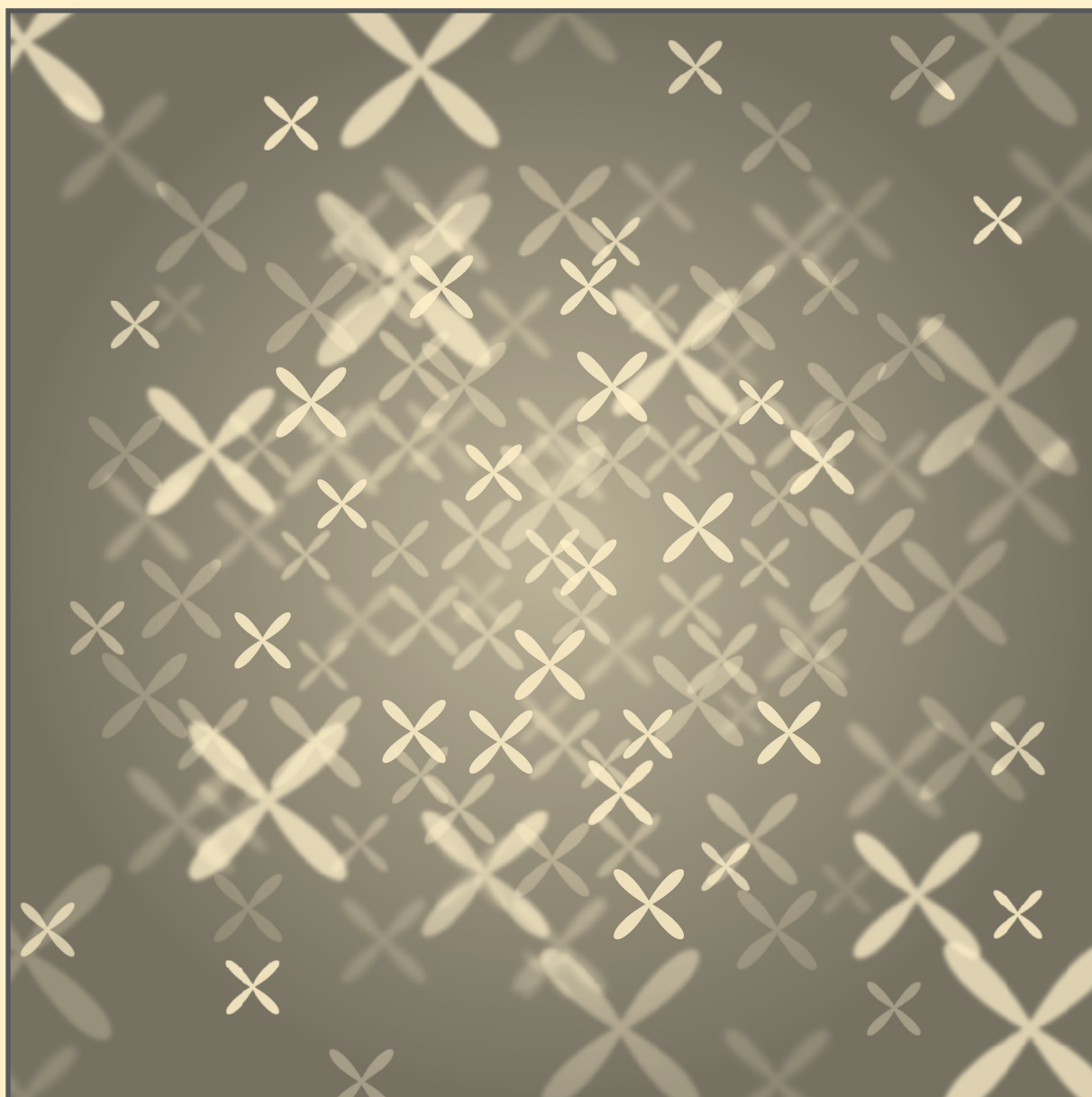

2012年度

シラバス 免許課程



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

科目の授業内容は、目次で検索してください。

目次の科目は、各課程別の授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

曜日時限も記載されていますが、変更になる場合があるので、教務課前掲示板で確認してください。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②目次の「備考」の表記

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

法：法学部

独：ドイツ語学科

済：経済学科

律：法律学科

英：英語学科

営：経営学科

国：国際関係法学科

仏：フランス語学科

総：総合政策学科

交：交流文化学科

③履修開始学年

目次の「学年」欄に、「学期」は()内に記載されています。

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

03年度以降・・・2003～2012年度入学者

07年度以降・・・2007～2012年度入学者

08年度以降・・・2008～2012年度入学者

09年度以前・・・2003～2009年度入学者

09年度以降・・・2009～2012年度入学者

10年度以降・・・2010～2012年度入学者

②入学年度、学部学科に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

3. 注意事項

①履修科目

入学年度や学部学科により、履修する科目及び科目名が異なります。

免許科目の履修に際しては、「履修の手引(免許課程)」で履修科目を確認してください。

②定員

定員を設けている科目があります。各学部・学科『授業時間割表』の『「免許課程」履修上の注意事項』の「受講制限について」を参照してください。

目次

【教職課程】—教科に関する科目—

科目名	時間割 コード	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
教職論	06900	春	月	4	桑原 憲一	2	1(1)	養は自学科 科目名で登録	1
教職論	06901	秋	月	5	桑原 憲一	2	1(1)		1
教職論	06902	春	火	1	川村 肇	2	1(1)		2
教職論	06903	春	金	5	川村 肇	2	1(1)	養は履修不可	2
教育原論	06906	秋	火	1	川村 肇	2	1(1)	養は自学科 科目名で登録	3
教育原論	06907	秋	木	3	川村 肇	2	1(1)		3
教育原論	06905	秋	木	4	小島 優生	2	1(1)		4
教育原論	06904	春	木	4	小島 優生	2	1(1)	再履修者用	4
教職心理学／教育心理学※	06910 ／19844	春	火	4	白砂 佐和子	2	1(1)	養は自学科 科目名で登録 ※交の該当科目	5
教職心理学／教育心理学※	06908 ／19736	春	金	1	田口 雅徳	2	1(1)		6
教職心理学／教育心理学※	06909 ／19738	秋	金	1	田口 雅徳	2	1(1)		6
教職心理学／教育心理学※	06911 ／19737	秋	火	2	松尾 由美	2	1(1)		7
教育制度	06914	春	月	5	桑原 憲一	2	2(3)	養は自学科 科目名で登録	8
教育制度	06915	春	水	3	小島 優生	2	2(3)		9
教育制度	06913	秋	水	3	小島 優生	2	2(3)		9
教育課程論	06919	春	火	4	桑原 憲一	2	2(3)	養は自学科 科目名で登録	10
教育課程論	06917	秋	火	5	桑原 憲一	2	2(3)		10
教育課程論	06918	春	水	2	安井 一郎	2	2(3)		11
ドイツ語科教科教育法Ⅰ	06920	春	火	1	金井 満	2	3(5)		12
ドイツ語科教科教育法Ⅱ	06921	秋	火	1	金井 満	2	3(5)		12
英語科教科教育法Ⅰ	14024	秋	火	3	安間 一雄	2	2(3)	養・経・法 のみ履修可	13
英語科教科教育法Ⅱ	14025	春	水	2	臼井 芳子	2	3(5)		14
英語科教科教育法Ⅲ	14026	秋	水	2	臼井 芳子	2	3(5)		14
英語科教科教育法Ⅰ	20885	秋	土	2	町田 喜義	2	2(3)	交のみ履修可	15
英語科教科教育法Ⅰ ／英語科教科教育法Ⅱ※	21667 ／21601	春	水	1	J. J. ダゲン	2	3(5)	外の履修可 受講定員あり ※交の該当科目	16
英語科教科教育法Ⅰ ／英語科教科教育法Ⅱ※	21669 ／21603	春	月	5	浅岡 千利世	2	3(5)		17
英語科教科教育法Ⅰ ／英語科教科教育法Ⅱ※	21668 ／21602	春	木	4	浅岡 千利世	2	3(5)		17
英語科教科教育法Ⅰ ／英語科教科教育法Ⅱ※	21670 ／21604	春	木	1	羽山 恵	2	3(5)		18
英語科教科教育法Ⅱ ／英語科教科教育法Ⅲ※	21673 ／21607	秋	水	1	J. J. ダゲン	2	3(5)		16
英語科教科教育法Ⅱ ／英語科教科教育法Ⅲ※	21674 ／21608	秋	月	5	浅岡 千利世	2	3(5)		17
英語科教科教育法Ⅱ ／英語科教科教育法Ⅲ※	21672 ／21606	秋	木	4	浅岡 千利世	2	3(5)		17
英語科教科教育法Ⅱ ／英語科教科教育法Ⅲ※	21671 ／21605	秋	木	1	羽山 恵	2	3(5)		18
フランス語科教科教育法Ⅰ	06932	春	木	1	中村 公子	2	3(5)		19
フランス語科教科教育法Ⅱ	06933	秋	木	1	中村 公子	2	3(5)		19
社会科教育法Ⅰ	06934	春	月	1	秋本 弘章	2	2(3)		20
社会科教育法Ⅱ	06935	春	火	2	秋本 弘章	2	3(5)		21
社会科教育法Ⅲ	06936	秋	火	2	秋本 弘章	2	3(5)		21
地理・歴史科教育法Ⅰ	06939	秋	土	1	鈴木 孝	2	2(3)		22
地理・歴史科教育法Ⅱ	06940	秋	木	1	秋本 弘章	2	3(5)		23
地理・歴史科教育法Ⅲ	06941	春	月	5	會田 康範	2	3(5)		24

科目名	時間割 コード	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
公民科教育法Ⅰ	06937	春	水	3	海野 省治	2	3(5)		25
公民科教育法Ⅱ	06938	秋	水	3	海野 省治	2	3(5)		25
情報科教育法Ⅰ	06942	春	火	1	秋本 弘章	2	3(5)		26
情報科教育法Ⅱ	06943	秋	火	1	秋本 弘章	2	3(5)		26
教科教育法特論Ⅰ	09110	春	月	4	安井 一郎	2	3(5)		27
教科教育法特論Ⅰ	06944	春	木	2	安井 一郎	2	3(5)		27
教科教育法特論Ⅱ	09111	春	木	2	J. J. ダゲン	2	3(5)	養、07～12年度入学の 経・法は履修不可	28
教科教育法特論Ⅱ	06945	秋	木	2	J. J. ダゲン	2	3(5)		28
教科教育法特論Ⅱ	19419	春	水	3	安間 一雄	2	3(5)	外、06以前入学の 経・法は履修不可	29
道德教育の研究	06947	春	金	1	小島 優生	2	2(3)		30
道德教育の研究	06948	秋	金	1	小島 優生	2	2(3)		30
道德教育の研究	06949	春	月	3	安井 一郎	2	2(3)		31
特別活動／特別活動論※	06952 ／19740	春	土	4	及川 良一	2	2(3)	※交・総 の該当科目	32
特別活動／特別活動論※	06953 ／19741	秋	土	4	及川 良一	2	2(3)		32
特別活動／特別活動論※	06950 ／19739	秋	月	4	桑原 憲一	2	2(3)		33
教育方法学	06956	春	月	2	町田 喜義	2	2(3)		34
教育方法学	06957	秋	月	2	町田 喜義	2	2(3)		34
教育方法学	06955	春	火	1	安井 一郎	2	2(3)		35
生徒指導法	06961	春	水	4	海野 省治	2	2(3)		36
生徒指導法	06960	秋	水	4	海野 省治	2	2(3)		36
生徒指導法	06958	春	火	5	桑原 憲一	2	2(3)		37
学校カウンセリング	06963	春	水	2	瀧本 孝雄	2	2(3)	養は自学科 科目名で登録	38
学校カウンセリング	06965	春	火	1	松尾 由美	2	2(3)		39
学校カウンセリング	06962	秋	火	1	松尾 由美	2	2(3)		39
総合演習※	06968	春	水	1	安井 一郎	2	3(5)	受講定員あり ※09年度以前 入学者該当科目	40
総合演習※	06972	秋	水	1	安井 一郎	2	3(5)		40
総合演習※	06967	秋	金	2	和田 智	2	3(5)		41
教育実習論Ⅰ(事前指導) ／教育実習論(事前・事後指導)※	21838 ／06976	秋	月	1	秋本 弘章	2	3(5)	受講定員あり ※10年度以降 入学者該当科目	42
教育実習論Ⅰ(事前指導) ／教育実習論(事前・事後指導)※	08751 ／21839	秋	金	5	川村 肇	2	3(5)		43
教育実習論Ⅰ(事前指導) ／教育実習論(事前・事後指導)※	08750 ／06975	春	水	2	小島 優生	2	3(5)		44
教育実習論Ⅰ(事前指導) ／教育実習論(事前・事後指導)※	08749 ／06974	秋	金	3	小島 優生	2	3(5)		44
教育実習論Ⅰ(事前指導) ／教育実習論(事前・事後指導)※	08752 ／06977	秋	火	1	安井 一郎	2	3(5)		45
教育実習論Ⅰ(事前指導) ／教育実習論(事前・事後指導)※	08753 ／06978	秋	水	4	岩崎 充益	2	3(5)		46
教育実習論Ⅰ(事前指導) ／教育実習論(事前・事後指導)※	08754 ／06979	秋	水	1	岩崎 充益	2	3(5)		46
教育実習論Ⅱ(事後指導)	12782	秋	金	5	川村 肇	2	4(7)	受講定員あり 春・水2は特別な事 情がある者のみ可	47
教育実習論Ⅱ(事後指導)	19820	秋	火	4	桑原 憲一	2	4(7)		48
教育実習論Ⅱ(事後指導)	09113	春	水	2	小島 優生	2	4(7)		49
教育実習論Ⅱ(事後指導)	06981	秋	金	3	小島 優生	2	4(7)		49
教育実習論Ⅱ(事後指導)	06980	秋	月	3	安井 一郎	2	4(7)		50
教育実習論Ⅱ(事後指導)	09112	秋	水	2	安井 一郎	2	4(7)		50
教育実習論Ⅱ(事後指導)	12783	秋	木	2	安井 一郎	2	4(7)		50
介護ボランティアの理論と実践	09109	春	水	3	保科 寧子	2	2(3)		51
介護ボランティアの理論と実践	06997	春	水	2	保科 寧子	2	2(3)		51
教育実習Ⅰ	07608	集中	-	-	各担当教員	2	4(7)		
教育実習Ⅱ	07609	集中	-	-	各担当教員	2	4(7)		

【教職課程】 —教科に関する科目—

科目名	時間割 コード	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
日本史概説Ⅰ	06982	春	月	4	會田 康範	2	1(1)		52
日本史概説Ⅱ	06983	秋	月	4	會田 康範	2	1(1)		52
外国史概説Ⅰ	06984	秋	金	5	兼田 信一郎	2	1(1)		53
外国史概説Ⅱ	06985	春	金	3	久慈 栄志	2	1(1)		54
地理学概説Ⅰ	06986	春	月	2	秋本 弘章	2	1(1)		55
地理学概説Ⅱ	06987	秋	月	2	秋本 弘章	2	1(1)		55
地誌学概説Ⅰ	06988	春	水	1	秋本 弘章	2	1(1)		56
地誌学概説Ⅱ	06989	秋	水	1	秋本 弘章	2	1(1)		56
法律学概説Ⅰ	07023	春	火	5	小川 佳子	2	2(3)	経・法は履修不可	57
法律学概説Ⅱ	07024	秋	火	5	小川 佳子	2	2(3)	経・法は履修不可	57
政治学概説Ⅰ	07025	春	木	2	杉田 孝夫	2	2(3)	経・法は履修不可	58
政治学概説Ⅱ	07026	秋	木	2	杉田 孝夫	2	2(3)	経・法は履修不可	58
社会学概説Ⅰ	07027	春	土	1	岡村 圭子	2	1(1)	養は自学科科目名で登録	59
社会学概説Ⅱ	07028	秋	土	1	岡村 圭子	2	1(1)	養は自学科科目名で登録	59
哲学概説Ⅰ	07029	春	火	5	河口 伸	2	2(3)		60
哲学概説Ⅱ	07030	秋	火	5	河口 伸	2	2(3)		60
倫理学概説Ⅰ	07031	春	金	3	川口 茂雄	2	1(1)	養は自学科科目名で登録	61
倫理学概説Ⅱ	07032	秋	金	3	川口 茂雄	2	1(1)	養は自学科科目名で登録	61
宗教学概説Ⅰ	07033	春	木	5	河口 伸	2	2(3)		62
宗教学概説Ⅱ	07034	秋	木	5	河口 伸	2	2(3)		62
心理学概説Ⅰ	07104	春	木	2	田口 雅徳	2	1(1)	養は自学科科目名で登録	63
心理学概説Ⅱ	07105	秋	木	2	田口 雅徳	2	2(3)	養は自学科科目名で登録	63

【司書課程】

科目名	時間割 コード	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
生涯学習概論	06998	秋	火	4	阪本 陽子	2	2(3)		64
図書館概論	06999	春	木	4	井上 靖代	2	2(3)		65
図書館経営論	07036	秋	金	3	井上 靖代	2	2(3)		65
図書館サービス論	07035	春	金	2	井上 靖代	2	2(3)		66
情報サービス論a	08830	春	月	3	福田 求	2	3(5)	受講定員あり	67
情報サービス論a	08747	春	月	4	福田 求	2	3(5)	受講定員あり	67
情報サービス論b	08748	秋	金	1	井上 靖代	2	3(5)	受講定員あり	67
情報サービス論b	08831	秋	金	2	井上 靖代	2	3(5)	受講定員あり	67
情報検索演習	07005	春	火	3	福田 求	2	3(5)	受講定員あり	68
情報検索演習	07004	春	火	4	福田 求	2	3(5)	受講定員あり	68
情報検索演習	07003	秋	月	4	堀江 郁美	2	3(5)	受講定員あり	68
図書館資料論	07006	春	金	1	井上 靖代	2	2(3)		69
専門資料論	07007	春	月	2	小黒 浩司	2	2(3)		70
資料組織概説	07008	春	月	1	小黒 浩司	2	3(5)		71
資料組織演習	07010	秋	月	2	小黒 浩司	2	3(5)	受講定員あり	71
資料組織演習	07009	秋	月	1	小黒 浩司	2	3(5)	受講定員あり	71
児童サービス論	07011	秋	木	4	井上 靖代	2	2(3)		72
図書及び図書館史	07012	春	金	3	井上 靖代	2	2(3)		73
資料特論	07015	秋	水	5	山家 篤夫	2	3(5)		74
コミュニケーション論	07013	秋	土	3	町田 喜義	2	2(3)		75
図書館特論	07014	秋	水	3	山家 篤夫	2	3(5)		76

【司書教諭課程】

科目名	時間割 コード	学期	曜日	時限	担当者	単位	学年 (学期)	備考	ページ
学校経営と学校図書館	07016	春	木	1	井上 靖代	2	2(3)		77
学校図書館メディアの構成	07017	秋	木	2	井上 靖代	2	2(3)		78
学習指導と学校図書館	07019	秋	木	1	井上 靖代	2	2(3)		79
読書と豊かな人間性	07020	春	木	2	井上 靖代	2	2(3)		80
情報メディアの活用	07021	秋	火	3	福田 求	2	2(3)		81
情報メディアの活用	07022	秋	火	4	福田 求	2	2(3)		81

2012年度 教職課程・司書教諭課程 年間行事予定

	行 事	対 象	日 時	教室、備考等
1 学 年	1 教職課程ガイダンス	全学部	4月4日(水) 9:30～10:30	E-102:外国語学部 E-101:国際教養学部、経済学部、法学部
	2 教職課程登録(課程費納付)	全学部	4月5日(木)～12日(木)	申請書提出不要
	3 司書・司書教諭課程ガイダンス	全学部	12月6日(木) 12:25～13:10	A-401

2 学 年	4 教職課程、司書教諭課程ガイダンス	全学部	3月29日(木) 12:30～13:30	E-102
	5 教職課程、司書教諭課程登録(課程費納付)	全学部	3月29日(木)～4月12日(木)	新規登録者、申請書提出不要
	6 介護等体験申込みガイダンス	2013年度体験予定者	10月16日(火) 12:25～13:10	E-101、掲示にて詳細連絡
	7 介護等体験希望登録(実習費納付)	2013年度体験予定者	10月17日(水)～10月31日(水)	教務課免許課程係
	8 司書・司書教諭課程ガイダンス	全学部	12月6日(木) 12:25～13:10	A-401

3 学 年	9 教職課程、司書教諭課程ガイダンス	全学部	3月29日(木) 15:00～16:00	E-102
	10 教職課程、司書教諭課程登録(課程費納付)	全学部	3月29日(木)～4月12日(木)	新規登録者、申請書提出不要
	11 介護等体験開始ガイダンス	2012年度体験予定者	4月17日(火) 12:25～13:10	E-101
	12 介護等体験直前ガイダンス	2012年度体験予定者	▽① 4月24日(火) ② 6月26日(火) ③ 9月25日(火) ④ 11月20日(火) の12:25～13:10	E-101 ▽体験日前月の回に出席 (8・9月に体験予定の者は②に出席、 1・2月に体験予定の者は④に出席)
	13 教育実習校開拓	2013年度教育実習予定者	教職課程ガイダンス以降速やかに	各自が自主的に開拓
	14 「教育実習依頼状交付願」提出	2013年度教育実習予定者	5月18日(金)まで(開拓できた者。 以降に開拓できた場合は随時提出)	免許課程係に提出
	15 「教育実習者登録票」提出			
	16 教育実習依頼状交付	2013年度教育実習予定者	5月28日(月)～	免許課程係で受取
	17 教育実習依頼状を実習校に持参	2013年度教育実習予定者	5月28日(月)以降随時	交付後速やかに
	18 教育実習準備セミナー	2013年度教育実習予定者	8月3日(金) 9:30～12:30 (前半90分:教育実習に備えて、 後半90分:教員採用試験に向けて)	4学年教育実習反省会と同時開催 [E-312:社会・地歴・公民・情報実習者、 E-308,311:外国語実習者]※
	19 「総合演習」体験学習	全学部	9月上旬、3月上旬	2泊3日(詳細は授業内で伝達)
	20 教育実習校斡旋願提出(未開拓者)	2013年度教育実習予定者	9月26日(水)～10月10日(水)	免許課程係に提出
	21 教育実習校斡旋者選考試験	2013年度教育実習予定者	10月18日(木)	教職・司書相談室
	22 司書・司書教諭課程ガイダンス	全学部	12月6日(木) 12:25～13:10	A-401

4 学 年	23 教職課程、司書教諭課程ガイダンス	全学部	3月29日(木) 15:00～16:00	E-101
	24 教職課程、司書教諭課程登録(課程費納付)	全学部	3月29日(木)～4月12日(木)	新規登録者、申請書提出不要
	25 教育実習オリエンテーション	2012年度実習者	①3月29日(木)16:00～17:30 ②3月30日(金)1・2・3・4時限	①E-101 ②E-311 他
	26 教育実習事前指導面接	2012年度実習者	各自の教育実習開始7日前まで	教職相談時間を実施
	27 教育実習指導教員発表	2012年度実習者	5月14日(月)	掲示にて発表
	28 教育実習校との打合せ	2012年度実習者	実習2～3週間前	各自実習校に確認
	29 教育実習(中学・高校にて実施)	2012年度実習者	日程は実習校により異なる	
	30 教育実習反省会	2012年度実習者	8月3日(金) 9:30～12:30 (前半90分:教育実習反省会、 後半90分:教員採用試験に向けて)	秋実習者を含め全員出席 [E-312:社会・地歴・公民・情報実習者、 E-308,311:外国語実習者]※
	31 教育実習日誌提出	2012年度実習者	期日・提出方法は「教育実習論Ⅱ(事後指導)」において指示する	
	32 免許状一括申請説明会(書類配付)	全学部	10月4日(木) 12:25～13:10	E-101、掲示にて詳細連絡
	33 免許状一括申請受付(手数料納付)	全学部	10月5日(金)～10月31日(水)	免許課程係に提出
	34 教職課程、司書教諭課程修了者発表	全学部	2013年3月5日(火)	掲示板
	35 教育実習日誌返却	全学部	2013年3月5日(火)以降	免許課程係にて
	36 司書教諭課程修了証申請受付	司書教諭課程修了者	2013年3月5日(火)～20日(水)	免許課程係
	37 免許状授与(一括申請者)	全学部	2013年3月20日(水)	卒業式当日

※E-308:英語学科学籍番号下3ケタ001～200、ドイツ語学科、言語文化学科／E-311:英語学科学籍番号下3ケタ201～、フランス語学科、交流文科学科、大学院生、科目等履修生

2012年度 司書課程 年間行事予定

	行 事	学 年	日 時	備 考
1	司書課程ガイダンス	2～4年	3月29日(木) 11:15～12:15	E-101
2	司書課程登録	2年、(3・4年)	3月29日(木)～4月12日(木)	新規登録者、申請書提出不要
3	司書・司書教諭課程ガイダンス	全学部	12月6日(木) 12:25～13:10	A-401
4	司書課程修了者発表	4年	2013年3月5日(火)	掲示板
5	司書課程修了証授与	司書課程修了者	2013年3月20日(水)	卒業式当日

* 上記日程は変更になる場合もあります。免許課程掲示板(教務課前)を必ず見てください。

教務課 免許課程係

*** お 知 ら せ ***

教職・司書相談室について

獨協大学では教職、司書、司書教諭課程履修者を強力にサポートするため、中央棟1階に教職・司書相談室を開設しています。

ここには教職、司書、司書教諭課程に関する資料や教科書・参考書が用意されています。これらは開室時間内は自由に閲覧できます。

また、同課程履修者を主たる対象に、専門家である教員が個別面談に応じています。

教員という仕事、気になる教育実習や教員採用試験、図書館で働くにはどうすれば良いか、など気になることを質問できます。

もちろん、教職、司書、司書教諭課程を登録・履修するか迷っている学生も質問可能です。

学科・学年を問わず広く開放されており、事前の予約は必要ありませんので、適宜利用してください。

なお、履修登録の方法や成績通知、教育実習の前提条件などの履修に関する質問は、東棟1階教務課 免許課程係に尋ねてください。

・場 所: 中央棟1階

・開室時間: 月～金曜日 9:00～17:00、土曜日 9:00～12:00

〔個別面談時間〕

	曜 日	時 間	担当者
教 職	月 曜	11:30～13:00	浅岡 千利世
	火 曜	—	—
	水 曜	11:30～13:00	岩崎 充益
	木 曜	11:30～13:00	秋本 弘章
	金 曜	11:30～13:00	小島 優生
	土 曜	—	—
司書・司書教諭	火 曜	11:30～13:00	福田 求

*** **

03 年度以降	教職論	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 本講義は、教育職員免許法に規定された教職の意義等に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、教職の概要を理解するとともに、教職に必要な不可欠な基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。 【概要】 本講義では、グループ討議や研究協議などを通して教職の意義、教員の身分や服務、職務の内容や必要とされる資質などについての主体的な理解を深めていく。教員が直面している諸課題についても取り上げ、教育に対する質の高い関心と教職に対する熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。		第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：期待される教師像と目指す教師像 第 3 回：教員の資質・能力 第 4 回：教員養成と教員免許 第 5 回：教員の任用と教育委員会 第 6 回：教員の身分と服務 第 7 回：教員の職務(1) 教員の日・学校運営と校務分掌 第 8 回：教員の職務(2) 学習指導と生徒指導 第 9 回：教員の研修 第10回：教員の人事評価 第11回：教職の現代的課題(1) 少年非行問題 第12回：教職の現代的課題(2) いじめ問題 第13回：教職の現代的課題(3) 不登校問題 第14回：教職の現代的課題(4) 教職員事故 第15回：教育理念と教育信条	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎の資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点 (30%)、課題レポート (20%)、試験 (50%) により、出席 3 分の 2 以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

03 年度以降	教職論	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教職論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職の意義と教職に就く心構えを学び、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とします。 【概要】 1. 「学級崩壊」「いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えている諸問題を取り上げて、実態をビデオ等により確認し、参加者で討議します。こうした問題への教師の取り組みを考えることを通して、教職の意義及び教員の役割および教員の職務内容を学びます。 2. 進路選択に資する各種の機会の提供を行ないます。 3. 諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、教職の役割を明確にすることで、今後の学習につなげていく道筋を理解していきます。特に体罰については、その問題点をきちんと理解することを求めます。 【要望】 ・ビデオを見たり、グループ討議を取り入れるので、遅刻や欠席は避けてください。討論がどうしても嫌だという人はこの講義には向きません。 ・右の講義計画は、討論の進み具合等によって、変更することがあります。		第1回：講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由／教職の意義と役割 第2回：学級崩壊を考える（実態把握）／宿題：学級崩壊への対処について 第3回：学級崩壊を考える（グループ討論） 第4回：学級崩壊を考える（グループ討論のプレゼンテーション）／宿題：少年法改正について 第5回：ADHDを考える（実態把握）／宿題：ADHDから学ぶこと 第6回：体罰を考える（グループ討論） 第7回：体罰を考える（体罰に関する理論的問題） 第8回：体罰を考える（裁判例と実態把握） 第9回：いじめを考える（実態把握）／宿題：いじめへの対処について 第10～11回：いじめを考える（グループ討論・発表） 第12回：教員の職務内容（研修、服務、身分保障）と職業選択の問題について 第13回：教師の専門職性を考える 第14回：様々な進路選択の問題を考える 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムを利用して配布するプリント類により ます。 参考文献は、授業中に適宜紹介します。		期末レポートと、数回の小レポートを総合評価します。出席は、6割以上を必須とし、毎回授業レポートシステムを利用して学んだことを記述してもらいます。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育原論	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養います。 【概要】 1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学びます。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていきます。		第1回：講義の進め方の説明 第2回：学力問題の国際比較（ドイツの事例） 第3回：習熟度別学級編成の問題 第4回：学力問題の国際比較（フィンランドの事例） 第5回：系統学習と問題解決学習について 第6回：「学力低下」と学力テストについて 第7～9回：戦後の教育の思想と歴史 第10回：「能力に応じた」教育を考える 第11回：教育における競争と自由の問題を考える 第12回：子どもの権利条約の精神 第13回：子どもに固有する権利と人権 第14回：子どもとはどういう存在か（系統発達と子どもの発見） 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ポケット版 子どもの権利ノート』（300 円） 参考文献は、授業中適宜紹介します。授業資料は講義支援システムを利用して配布します。		授業内試験結果に、授業レポートシステムを利用したレポートや感想文を加味します。実施した場合には小テストの点数等も加味します。出席は 6 割以上、授業内試験の受験を必須とします。	

03 年度以降	教育原論	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 教職課程履修者が最初に受講するものと想定している。したがって、教職課程の基礎理論編として、教育哲学、教育史、教育制度、教育法などの基礎を広く扱う。 ●講義概要 1 回目のガイダンスでは、授業の進め方や評価方法、参考文献等を指示する。 2～4 までは、日本の戦後教育の成り立ちとその理念について憲法・教育基本法体制を中心に扱う。 5～8 までは、国家と教育とのかかわりについて、教科書検定や、学力テストの関係を中心に検討する。 9～11 までは、教育と経済の関係において、とくにキーとなる「能力主義」を中心に扱う。 12～14 までは教育の自由や、公共性の問題を扱いながら、教育基本法の改正動向等についても検討する。 ※授業内容の変更もありうる。		1. 講義についてのガイダンス 2. 戦後教育改革をどうとらえるか① 3. 戦後教育改革をどうとらえるか② 4. 戦後教育改革をどうとらえるか③ 5. 国家と教育① 6. 国家と教育② 7. 国家と教育③ 8. 小テスト&まとめ 9. 経済と教育① 10. 経済と教育② 11. 経済と教育③ 12. 教育の自由と公共性① 13. 教育の自由と公共性② 14. 教育の自由と公共性③ 15. 小テスト&まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		①授業への出席、発言などの貢献、②授業レポートシステムの提出・内容、③テスト等を総合的に評価する。 <u>評価方法等の詳細は一回目のガイダンスで指示する。</u>	

03 年度以降	教育原論	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 教職課程履修者が最初に受講するものと想定している。したがって、教職課程の基礎理論編として、教育哲学、教育史、教育制度、教育法などの基礎を広く扱う。 ●講義概要 1 回目のガイダンスでは、授業の進め方や評価方法、参考文献等を指示する。 2～4 までは、日本の戦後教育の成り立ちとその理念について憲法・教育基本法体制を中心に扱う。 5～8 までは、国家と教育とのかかわりについて、教科書検定や、学力テストの関係を中心に検討する。 9～11 までは、教育と経済の関係において、とくにキーとなる「能力主義」を中心に扱う。 12～14 までは教育の自由や、公共性の問題を扱いながら、教育基本法の改正動向等についても検討する。 ※授業内容の変更もありうる。		1. 講義についてのガイダンス 2. 戦後教育改革をどうとらえるか① 3. 戦後教育改革をどうとらえるか② 4. 戦後教育改革をどうとらえるか③ 5. 国家と教育① 6. 国家と教育② 7. 国家と教育③ 8. 小テスト&まとめ 9. 経済と教育① 10. 経済と教育② 11. 経済と教育③ 12. 教育の自由と公共性① 13. 教育の自由と公共性② 14. 教育の自由と公共性③ 15. 小テスト&まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		①授業への出席、発言などの貢献、②授業レポートシステムの提出・内容、③テスト等を総合的に評価する。 <u>評価方法等の詳細は一回目のガイダンスで指示する。</u>	

03 年度以降 09 年度以降	教職心理学 教育心理学（交流文化学科生）	担当者	白砂 佐和子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、教育分野にまつわる心理学の知見に幅広く触れつつ、教育現場で重要と思われる「人を理解すること」について心理学的に深めることを目的とする。具体的には、学習心理学、人格の理解、人格の発達、発達課題とつまずき、子どもの心理を理解すること等について、現場と理論のつながりを考えながら講義していきます。		1. 教育心理学について 2. 動機づけ理論 3. 人格の理解（1） 4. 人格の理解（2） 5. 学習心理学 6. 記憶・認知の心理学 7. 発達心理学序論・ライフサイクル 8. 乳幼児期の重要性（1） 9. 乳幼児期の重要性（2） 10. 人間の深層心理とその理解について 11. 発達上の課題 学童期前半 12. 発達上の課題 学童期後半 13. 発達上の課題 思春期 14. 発達上の課題 青年期以降 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業にて提示する		出席状況とテスト結果を合わせて評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降 09 年度以降	教職心理学 教育心理学（交流文化学科生）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
今日、日本の教育環境は大きな転換点にさしかかっている。このように激変しつつある教育現場に携わるときに必要なとされる心理学の基礎的知識について、本講義を通して理解を深めてほしい。 教育心理学には大きく（１）測定・評価，（２）人格・適応，（３）発達，（４）学習という４つの領域がある。本講義ではまず教育心理学が成立した歴史的背景を述べた上で、これらの４領域の内容を詳しくみていくことにする。すなわち，１．教育心理学とはなにか，２．教育評価と学力問題，３．学習の過程と学習への動機付け，４．発達および発達障害などについて講義していく予定である。		授業計画 第１回：教育心理学の領域とその歴史 第２回：教育測定と教育評価 第３回：教育評価の方法 第４回：教育評価と学力問題 第５回：学習の原理 第６回：学習における動機付け 第７回：学習意欲と原因帰属 第８回：学習意欲と目標理論 第９回：学習意欲と教師の役割 第１０回：発達と学習 第１１回：心理アセスメントと発達障害 第１２回：学習障害の理解 第１３回：AD/HD の理解 第１４回：自閉性障害の理解 第１５回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用しない。毎回レジュメを配布して授業をおこなう。また、必要な資料は授業において配布する。		授業時の小レポートおよび学期末の試験により総合的に評価をおこなう。	

03 年度以降 09 年度以降	教職心理学 教育心理学（交流文化学科生）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結授業のため春学期の内容を参照のこと）			
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降 09 年度以降	教職心理学 教育心理学（交流文化学科生）	担当者	松尾 由美
講義目的、講義概要		授業計画	
昨今教育現場で起こる様々な問題（いじめ、不登校、学級崩壊など）の解決のために、心理学の理論を用いたアプローチが求められることも少なくありません。 この講義では、これまでの心理学で得られてきた、学習や発達に関する心理学の基本的な理論を紹介するとともに、特に、生徒の発達や学習にかかわる問題について、心理学の理論から、どのようにアプローチできるのか、考えます。 また、心理学の理論を使って、生徒をよりよく理解すること、よりよい教育方法を考えることを目標とします。 ですので、ただ講義を聴くだけではなく、授業中に実施する実習や課題について、積極的に取り組むことを求めます。		1. 講義の概要 2. 育ちゆく心と体 3. やる気を高める 4. 学習のメカニズム 5. 認知の発達 6. アイデンティティ 7. 社会性を育む 8. 親子・仲間関係の発達 9. 記憶 10. 思考 11. 教育評価 12. 学級づくり 13. 発達障害の理解と教育① 14. 発達障害の理解と教育② 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。プリントを配布する。 参考文献は、授業中に適宜紹介する。		評価方法：期末試験の結果（70%）によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの提出物や実習への参加（30%）も評価対象とする。	

03 年度以降	教育制度	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。 【概要】 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する質の高い関心と熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。		第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：教育の制度化 第 3 回：学校教育制度の概要 第 4 回：学校教育制度の変遷 第 5 回：公教育と私教育 第 6 回：教育行財政 第 7 回：教育委員会制度 第 8 回：教育課程と学習指導要領 第 9 回：諸外国の教育制度 第 10 回：家庭教育の現状と課題 第 11 回：社会教育の現状と課題 第 12 回：教育改革の現状と課題(1) 学校評価・人事評価制度 第 13 回：教育改革の現状と課題(2) 学校選択制・小中高一貫教育 第 14 回：教育改革の現状と課題(3) 学校評議員・学校運営協議会 第 15 回：教育改革の現状と課題(4) 初任者研修・教員免許更新制度	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎の資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点 (30%)、課題レポート (20%)、試験 (50%) により、出席 3 分の 2 以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育制度	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 教育に関わる法制度の理論と仕組みを理解した上で、新しい動向を検討することを目的としている。 ●講義概要 2, 3は他の行政分野とは異なる仕組み、教育委員会を中心にその仕組みと、準公選制度を実施した中野区の事例を検討する。 4, 5は学校運営の仕組みを概観した後、世界的動向ともいえる「自律的学校経営」について、日本の学校評議員や韓国の学校運営委員会制度などとも比較しながら検討する。 7, 8では教育行政の主な役割とされる教育条件整備について学級定員、および例外事項としての教員給与を扱う。 9, 10では教員養成の仕組みについて、戦後の教員養成制度の特徴および最近の動向、そして日本が範としたフィンランドの教員養成を検討する。 11, 12では教科書編成を中心とした仕組みを検討し、独自の副読本づくりを行った犬山市の事例を検討する。 また、随時用語説明を中心とした小テストを実施し、理解での定着を図りたい。		1. ガイダンス（講義の目的、進め方についての説明など） 2. 教育行政を動かす組織—教育委員会制度 3. 教育委員会制度（中野区・韓国？） 4. 学校運営の仕組み 5. 学校運営の新しい動向（韓国の学校運営委員会） 6. 小テスト 7. 条件整備行政の仕組み 8. 条件整備行政の新しい動向（少人数学級） 9. 教員の養成・採用・研修・身分の仕組み 10. 教員政策の新しい動向（社会人の登用） 11. 教員政策の新しい動向（教員評価） 12. 教育課程行政と教科書の仕組み 13. 教育課程行政と教科書の新しい動向（犬山市） 14. 小テスト 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：勝野正章・藤本典裕編（2008）『教育行政学（改訂版）』学文社 参考文献：授業中に適宜指示する		①出席、発言など、②授業レポートシステム、③小テスト、④学期末テスト（レポート）などで評価する。 <u>評価方法などは第一回目に指示する。</u>	

03 年度以降	教育制度	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育課程論	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の目標や内容、授業時数などを総合的に組織した学校の教育計画である。この教育課程は、校長を中心として全教職員の参画の下に、学校が主体性を持って編成していかなければならない。したがって、教職に携わる者は、教育課程に関する基礎的・基本的な事項を修得しておかなければその使命と責務を果たすことはできない。 本講義では、平成20年に改訂された学習指導要領を踏まえ、教育課程の概念や意義、教育課程編成の一般方針、指導計画の作成、編成の手順と評価等について研究を深めつつ実践能力をはぐくむことを目的とする。		1 オリエンテーション 2 教育課程の概念と意義 3 西欧の教育課程・カリキュラムの変遷 4 日本の教育課程・カリキュラムの変遷 5 教育課程の基準と関係法令 6 教育課程編成の一般方針 7 内容の取扱いと各教科等の授業時数 8 教育課程実施上の配慮事項 9 指導計画の作成と教育課程編成の手順 10 年間教育計画、週日課、時間割等の編成の実際 11 各国の教育課程の比較検討1 12 各国の教育課程の比較検討2 13 各国の教育課程の比較検討3 14 各国の教育課程の比較検討4 15 整理とまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中・高等学校学習指導要領解説・総則編』 講義毎に配布する資料 参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点（30%）、課題レポート（20%）、試験（50%）により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

03 年度以降	教育課程論	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育課程論	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。 講義概要 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。		1 教育課程と学力問題 2 教育課程とは何か 3 日本の教育課程(1) 4 日本の教育課程(2) 5 教育課程編成の理論と方法(1) 6 教育課程編成の理論と方法(2) 7 教育課程編成の理論と方法(3) 8 学習指導要領と教育課程(1) 9 学習指導要領と教育課程(2) 10 学習指導要領と教育課程(3) 11 学習指導要領と教育課程(4) 12 新学習指導要領の検討 (1) 13 新学習指導要領の検討 (2) 14 教育課程と評価 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。		出席（7 割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	ドイツ語科教科教育法Ⅰ	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語科教育法Ⅰにおいては、ドイツ語の基礎知識の確認と補強、および外国語教授法の知識と教案の作成などの実務的な技能の獲得を目標とする。 基礎知識に関しては、学科基礎科目において習得してきた文法に関する知識のみならず、ドイツ語の授業を行うのに必要だと思われるドイツ語に関わる一般的知識をも含めて確認・補強をする。外国語教授法に関しては、代表的な教授法に関して受講者に調査・報告をしてもらい、その長所・短所を議論する。また教案や試験問題なども実際に作成してみたい。 なお英語の免許取得を目指している場合でも、免許科目という特性上、特に配慮はしないので、ドイツ語の免許を取得するというしっかりした自覚を持って受講してほしい。		1. オリエンテーション 2. ドイツ語基礎知識の確認 3. ドイツ語基礎知識の確認 4. ドイツ語基礎知識の確認 5. ドイツ語基礎知識の確認 6. ドイツ語基礎知識の確認 7. 外国語教授法について 8. 外国語教授法について 9. 外国語教授法について 10. 外国語教授法について 11. 外国語教授法について 12. 外国語教授法について 13. 外国語教授法について 14. 外国語教授法について 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉島茂・境一三著『ドイツ語教授法』三修社2003 年		1. ドイツ語文法と教授法の基礎知識に関しては、授業内の筆記試験。 2. 教授法に関する発表。 3. 授業への参加度。特に出席。	

03 年度以降	ドイツ語科教科教育法Ⅱ	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
ドイツ語科教育法Ⅱにおいては、複数回の模擬授業を通じて、ドイツ語を教えるという経験の獲得を目指したい。模擬授業の際には担当者の授業をビデオ撮影し、担当者自らが自分の授業を振り返り、さらに参加者全員で講評し合うことができるようにする。 なお英語の免許取得を目指している場合でも、免許科目という特性上、特に配慮はしないので、ドイツ語の免許を取得するというしっかりした自覚を持って受講してほしい。		1. オリエンテーション 2. 模擬授業 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		1. 筆記試験。 2. 模擬授業。 3. 授業への参加度。特に出席。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

07 年度以降	英語科教科教育法 I	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目的 英語科指導に関わる教授法・学習理論・学習環境についてそれらの背景理論を習得することを目標とする。 授業概要 この授業では、まず学習者要因として第2言語発達の諸相を明らかにし、外国語学習への応用を検討する。次に教授法の歴史的変遷をたどりそれぞれの利点と欠点を明らかにする。特に最新の教授理論の背景とその効果に関わる研究について議論する。授業ではこれらの話題を概説したテキストを読み、そこで取り上げられている論文の内容を報告してもらう。教授法についての内容を知ることと共にアカデミックな論文・報告書を読めるようにすることが目標である。 参考文献 H. D. Brown, <i>Principles of Language Learning and Teaching</i>, 4th ed. (Pearson, 2000; ISBN 0130178160) D. Larsen-Freeman, <i>Techniques and Principles in Language Teaching</i>, 2nd ed. (Oxford University Press, 2000; ISBN 978-0194355742)		1. 第1言語習得過程：経験学習説，生得説 2. 第2言語習得過程：学習環境（ESL/EFL），年齢による習得差 3. 学習者の個別要因（1）：知能，適性 4. 学習者の個別要因（2）：学習スタイル，性格 5. 学習者の個別要因（3）：動機付け・態度 6. 学習者の個別要因（4）：アイデンティティ，学習観 7. 学習者の個別要因（5）：年齢条件 8. 第2言語学習の様態（1）：教授法による教師と学習者の関わりの相違 9. 第2言語学習の様態（2）：誤りの訂正 10. 第2言語学習の様態（3）：質問方法，民族誌的研究 11. 教授法の効果検証（1）：オーディオリンガル法 12. 教授法の効果検証（2）：ナチュラル・アプローチ，人間的アプローチ 13. 教授法の効果検証（3）：コミュニカティブ・アプローチ 14. 教授法の効果検証（4）：イマージョンプログラム 15. 教授法の効果検証（5）：Focus on form	
テキスト、参考文献		評価方法	
P. Lightbown & N. Spada, <i>How Languages Are Learned</i>, 3rd ed. (Oxford University Press, 2006; ISBN 978-0194422246)		定期試験および授業時の課題	

07 年度以降	英語科教科教育法Ⅱ	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 今日の英語科教育で広く求められるコミュニケーションな学習活動および評価方法を自ら創造し、英語で指導できる技術を獲得することを目標とする。 授業概要： 英語授業の各技能および領域にコミュニケーションな学習活動を取り入れるための様々な方法論を実践的に学ぶ。コミュニケーションな教材・テストの作成法を学ぶほか、教室内での課題学習活動を設計し、実践する。また、教室英語指導技能の訓練も同時に行う。		1. 英語教育の目的および指導目標 2. 第2言語習得理論と外国語教授法 3. 英語指導方法（文法） 4. 英語指導方法（オーラルイントロダクション） 5. 英語指導方法（パタンプラクティス・コミュニケーションドリル） 6. 英語指導方法（語彙） 7. 英語指導方法（音読） 8. 英語指導方法（発音） 9. 英語指導方法（コミュニケーションタスク） 10. 学習指導案 1 11. 学習指導案 2 12. 英語評価と言語テスト 1 13. 英語評価と言語テスト 2 14. 英語学習と心理要因 15. 統括 *受講生の人数等により、授業計画は変更することもあります。 *第3週～第9週：各回ミニ模擬授業あり *クラスルーム英語：各回小テストあり	
テキスト、参考文献		評価方法	
村野井他著、「統合的英語科教育法」（2011）成美堂（ISBN978-4-7919-5094-2）		授業時の課題 60% （ミニ模擬授業、学習指導案、クラスルーム英語小テスト含む） 定期試験 40%	

07 年度以降	英語科教科教育法Ⅲ	担当者	臼井 芳子
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 英語科教科教育法Ⅱに引き続き、英語授業の各技能および領域にコミュニケーションな学習活動を取り入れるための様々な方法論を実践的に学ぶ。 授業概要： Ⅱで学んだものを応用し、特に技能統合型、内容重視型などの指導方法を実践的に学ぶ。指導案（評価含む）を作成し、それに基づいた模擬授業を実施する。		1. 英語教師論 2. 自律学習論 3. 英語教育と異文化間教育 4. ～12. 模擬授業 13. 小学校外国語教育 1 14. 小学校外国語教育 2 15. 統括 *受講生の人数等により、授業計画は変更することもあります。	
テキスト、参考文献		評価方法	
村野井他著、「統合的英語科教育法」（2011）成美堂（ISBN978-4-7919-5094-2）		授業時の課題（学習指導案、レポート他） 模擬授業	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	英語科教科教育法Ⅰ（交流文化学科生）	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
・講義目的：「コミュニケーション」と「教育」の関わりを理解する。 ・講義概要：教育はコミュニケーションの一形態である。今学期は上記の概念を理解し、その上で英語という外国語（第二言語ではない）の教育・学習過程をどの様に連鎖させるかを解説する。		第1回：講義概要説明 第2回：教育について 第3回：コミュニケーションについて 第4回：外国語学習と第二言語学習 第5回：英語と日本語 第6回：学外講師（中・高校教諭）の講義 第7回：統語論 第8回：意味論 第9回：語用論 第10回：授業設計① 第11回：授業設計② 第12回：視聴覚メディアと教育 第13回：測定と評価① 第14回：測定と評価② 第15回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が作成した教材を使用する。参考はその都度明示する。		出席点、レポート、定期試験で評価する。	

03 年度以降 09 年度以降	英語科教科教育法 I 英語科教科教育法 II (交流文化学科生)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is to not just introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach), but also to establish a basis of understanding of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based, and upon which the student will be able to build and develop a coherent plan of instruction. We shall spend most of this term in reading, lecture, and discussion of the approaches, concepts and reasoning on which foreign language education is based. As class time is limited and valuable, students will be expected to keep up on the reading on their own time. Class time will be reserved for lecture and discussion. As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail. Note: Student selection for this class will be carried out during the guidance period at the beginning of the academic year.		Week 1: Course description. Assignment. Week 2: Theme: The teaching situation. Lecture, discussion, assignment. Week 3: Theme: The role of the teacher. Lecture, discussion, assignment. Week 4: Theme: The role of the school. Lecture, discussion. Week 5: Theme: The role of the student. Lecture, discussion, project assignment. Week 6: Theme: Testing. Lecture, discussion, reading. Week 7: Theme: Testing. Lecture, discussion, assn. Week 8: Theme: How is language learned? Lecture, discussion, reading. Week 9: Theme: The history of language teaching. Lecture, discussion. Week 10: Theme: Approach and method--traditional. Lecture, discussion, handouts. Week 11: Theme: Approach and method--modern. Lecture, discussion. Week 12: Theme: Planning a lesson. Lecture, discussion. Week 13: Theme: Selected topics. Week 14: Theme: Selected topics. Week 15: Consolidation & Review.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hubbard, P. et al., <i>A Training Course for TEFL</i> . (Oxford Univ. Press.) Handouts.		Grades are based on in-class participation, a number of assignments, and a final assessment based on the handouts and lecture.	

03 年度以降 09 年度以降	英語科教科教育法 II 英語科教科教育法 III (交流文化学科生)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is to introduce the student to the necessary teaching techniques (how to teach) involved in teaching a successful language class, built on an understanding of the approaches, concepts, and reasoning on which foreign language education is based as presented in the first semester. This course will be devoted to student in-class practice teaching based on the material covered in the first semester, and incorporating practical teaching techniques that will be covered in reading and lecture. We will first look at materials and techniques used in teaching the various language skills, and then develop a lesson plan making use of said techniques. As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail. Note: Student selection for this class will be carried out during the guidance period at the beginning of the academic year.		Week 1: Course Introduction, Decide presentation schedule Week 2: Teaching Grammar--Lecture, Activities Week 3: Teaching Grammar--Video Week 4: Teaching Grammar--Student presentations Week 5: Teaching Reading--Lecture, Activities Week 6: Teaching Reading--Student presentations Week 7: Teaching Writing--Lecture, Activities Week 8: Teaching Writing--Student presentations Week 9: Teaching Listening--Lecture, Activities Week 10: Teaching Listening--Student presentations Week 11: Teaching Oral Communication--Lecture, Activities Week 12: Teaching Oral Communication--Student presentations Week 13: Selected activities. Week 14: Make-up presentations. Week 15: Consolidation & Review.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hubbard, P. et al., <i>A Training Course for TEFL</i> . (Oxford Univ. Press.) Handouts.		Grades are based on in-class participation, a number of assignments, a presentation, and a final paper.	

03 年度以降 09 年度以降	英語科教科教育法Ⅰ 英語科教科教育法Ⅱ（交流文化学科生）	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では中学・高校の英語教員を目指すも学生が知っておくべき外国語学習・教育に関する理論を幅広く取り上げる。また、学期を通して自分の英語教員としての専門性と成長について考え、振り返る場とする。授業はディスカッションやグループワークおよび英語を多用するので、積極的な参加が必要となります。 授業の内容や情報は講義支援システムに随時アップしますので各自で必ず確認してください。		1. Introduction to course 2. Reflection on language learning and teaching 3. Theoretical approaches and methods 4. Syllabus and teaching guidelines 5. Textbooks 6. Classroom management 7-8. Lesson planning 9-10. Materials development 11. Testing and evaluation 12. Team teaching 13. Teaching younger learners 14. Teaching global issues 15. Reflection and wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムとハンドアウト使用		出席&授業への貢献度（30%）、ジャーナル（30%） 教案（20%）ポートフォリオ（10%）自己評価（10%）	

03 年度以降 09 年度以降	英語科教科教育法Ⅱ 英語科教科教育法Ⅲ（交流文化学科生）	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では春学期に学習した理論をもとに模擬授業などの実践を中心に行う。全員複数回の模擬授業、教案作成と再作成、ビデオ録画と自己評価、チュートリアル、グループワーク、ポートフォリオ作成などを通して、自分の英語教員としての専門性と成長を振り返る。 授業の内容や情報は講義支援システムに随時アップしますので各自で必ず確認してください。		1. Introduction 2. Classroom language 3. Lesson planning 4. Individual presentations, Lesson planning 5. Individual presentations, Lesson planning 6. Micro teaching 1 (pair, one task) 7. Micro teaching 1 8. Micro teaching 1 9. Reflection 10. Micro teaching 2 (group, one lesson) 11. Micro teaching 2 12. Micro teaching 2 13. Micro teaching 2 14. Micro teaching 2 15. Reflection and wrap-up	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムとハンドアウト使用		出席&授業への貢献度（30%）、reflective essays（20%） 模擬授業&教案（30%）、ポートフォリオ（10%）、自己評価（10%）	

03 年度以降 09 年度以降	英語科教科教育法Ⅰ 英語科教科教育法Ⅱ（交流文化学科生）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] 日本における英語教育の最新事情やさまざまな課題を知るとともに、それらを解決する方法を文献講読や受講者間のディスカッションを通じて探っていく。 また、中学・高校の英語授業において効果的であると考えられる指導法や評価方法を文献や授業映像から学ぶとともに、受講生にはそれらをより良くする改善案を考えてもらう。具体的な指導法のテクニック等を知ること、本授業の目的の一つである。 [概要] 授業においては、「知る」→「考える」→「共有する」という一連の流れを重視する。 配布するプリントや紹介する書籍・授業映像を通じて、どのような英語教授法があるのかを知り、その長短所や改善点について受講生自らが積極的に考えることを期待する。そして、新しく知った教授法・評価法を実践できるようになることが望ましい。ただし、よりスキルを重視した「練習」は秋学期に集中的に行う。		1. 【ガイダンス】 2. 日本における英語教育の歴史と現状課題 3. 国際化と英語の役割 4. 学習指導要領 5. 早期英語教育 6. 学習者要因 7. 英語教員 8. 英語教授法（1） 9. 英語教授法（2） 10. 第二言語習得研究 11. テスト（測定と評価） 12. 教科書と教材研究 13. カリキュラムとシラバスデザイン 14. 授業の組み立て方 15. 【まとめ】	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト： 『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 望月昭彦編著 大修館書店		出席＋授業活動への参加度＋期末試験により評価する。 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

03 年度以降 09 年度以降	英語科教科教育法Ⅱ 英語科教科教育法Ⅲ（交流文化学科生）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
[目的] 中学・高校における一時間の英語の授業を実践できる知識と技能を身につける。 [概要] 受講生による模擬授業（micro-teaching）を中心に進めていく。 与えられる「テーマ」に則り授業計画を立て、その一部を授業内で披露する。模擬授業は全員が学期内に実施すること、所定の形式に従った指導案を書けるようになることが課せられる。 各模擬授業に対しては、担当教員と受講生が感想やアドバイスを与える。		1. 【ガイダンス】 2. 新出文法事項の導入方法（1） 3. 新出文法事項の導入方法（3） 4. 新出文法事項の導入方法（2） 5. オーラル・イントロダクション 6. 教科書本文の理解を促す活動 7. メディアの活用 8. さまざまなリスニング活動 9. 総合力を反映させるライティング活動 10. 段階的スピーキング活動 11. テスト作成 12. 1 時間の授業の組み立て（1） 13. 1 時間の授業の組み立て（2） 14. 授業で使える英語ゲーム 15. 【まとめ】	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

03 年度以降	フランス語科教科教育法Ⅰ	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
< 講義目的 > 言語教育に携わっていく上で必要な基礎知識と教育実習に必要な事柄の習得。また日本におけるフランス語教育および言語教育の現状と「これから」について考える。 < 講義概要 > フランス語教育の歴史的変遷や教材、教室活動、教案の書き方、評価の仕方などを紹介する。主に講義形式となるが、教材分析や教案の作成などグループ作業や個人作業も取り入れる。講義内容をまとめたノートを各自作成すること。 < 注意！ > 必ず、教育実習を行う前年の3年次に履修すること。		1. はじめに（教育実習予定、授業について、等） 2. コースデザイン、シラバスデザイン、カリキュラムデザイン 3. 教案の書き方 4. 言語教育における教授法の歴史的変遷 1 5. 言語教育における教授法の歴史的変遷 2 6. 教材分析 1 7. 教材分析 2 8. 教室活動と指導法 1 9. 教室活動と指導法 2 10. 教師の役割と教室空間の利用法 11. 教案と教室活動 1 12. 教案と教室活動 2 13. 授業実践のための準備とまとめ 14. 評価について 15. まとめ （順不同）	
テキスト、参考文献		評価方法	
各テーマに応じて授業中に指示する。		出席（無遅刻無欠席が原則）と授業参加態度。授業中の講義内容ノート、授業での発表、課題、レポート等での総合評価。	

03 年度以降	フランス語科教科教育法Ⅱ	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
< 講義目的 > 教壇に立つための訓練を通して、教師の役割、授業準備や教室活動、授業の展開など、授業を行う時の注意点や問題点などについて考える。 < 講義概要 > 毎回、学生による模擬授業を行う。 「教案作成→授業準備→授業実施→評価と反省 →次回克服する課題を決める→個別指導」 上記のような流れになる。 10～25 分程度の模擬授業を各自数回行う予定。回数と持ち時間は受講者数によるので、秋学期の最初の授業時にすべての模擬授業予定を決定する。		1. 模擬授業のための準備と注意点 2. 模擬授業 3. 模擬授業 4. 模擬授業 5. 模擬授業 6. 模擬授業 7. 模擬授業 8. 模擬授業 9. 模擬授業 10. 模擬授業 11. 模擬授業 12. 模擬授業 13. 模擬授業 14. 模擬授業 15. まとめ：教育実習に行くまでに	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて授業中に指示する。		出席（無遅刻無欠席が原則）と授業参加態度。模擬授業の教案と準備、模擬授業、反省・感想文、事後指導態度、注意点のまとめ、レポート等での総合評価。	

03 年度以降	社会科教育法 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。 社会科教育法 I では、社会科の基本的性格を明らかにするとともに、学習指導要領に基づいて、教科の内容について基本的知識を身につける。また、今日社会科教育に課されている課題について考える。 なお、科目の性質上、単なる講義ではなく受講者の発表等を取り入れながら授業を進めていく。 * 中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。		1 社会科教員の 1 日 2 社会科成立の背景と意義 3 社会科の教育課程とその変化 (1) 4 社会科の教育課程とその変化 (2) 5 社会科の教育課程とその変化 (3) 6 社会科の教育内容 (1) 地理的分野 (1) 7 社会科の教育内容 (2) 地理的分野 (2) 8 社会科の教育内容 (3) 歴史的分野 (1) 9 社会科の教育内容 (4) 歴史的分野 (2) 10 社会科の教育内容 (5) 公民的分野 (1) 11 社会科の教育内容 (6) 公民的分野 (2) 12 社会科の今日的課題 (1) 環境 13 社会科の今日的課題 (2) 国際化 14 社会科の今日的課題 (3) 情報化 15 社会科の今日的課題 (4) 人権	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部省『中学校学習指導要領解説（平成 20 年 9 月）社会編』日本文教出版ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	社会科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。社会科教育法Ⅱでは、社会科の授業実践のための様々な技能を身につけることを目的とする。 社会科で身につけるべき広い意味での学力（知識・技能・態度等）を踏まえて、授業形態別に実践のための知識と技能を具体的に学んでいく。また、情報通信機器等に活用や地域との連携についても考えていく。科目の性質上、授業時に課題等が多く課せられる。また、臨地学習については見学先等との都合により、日時をかえて行なう場合がある。 ＊中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。		1 社会科の目標と身につけるべき力 2 学習と評価 3 講義式授業の特質 4 教材の収集と利用（１）新聞・雑誌・書籍 5 教材の収集と利用（２）視聴覚教材 6 教材の収集と利用（３）インターネット等 7 教材の収集と活用（４）ワークシートの作成 8 生徒主体の学習指導法（１）調べ学習の指導 9 生徒主体の学習指導法（２）ディベートと発表 10 シミュレーション教材の利用 11 臨地学習の意義と計画 12.13. 臨地学習の実践 14 学習指導計画と学習指導案(1) 15 学習指導計画と学習指導案(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領解説（平成 20 年 9 月）社会編』日本文教出版ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03 年度以降	社会科教育法Ⅲ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
中学校において、社会科を担当するための基礎となる事柄を習得する。 社会科教育法Ⅲでは、社会科の年間学習指導計画および学習指導案の書き方を学習した後、模擬授業を行い、社会科の教員としての望ましい知識と態度を身につける。 ＊中学校「社会科」の教育内容について、教科書等を購入し、自習しておくこと。		1. 学校カリキュラムの中の社会科 2. 社会科各分野の特性、内容と年間学習指導計画 3. 地理的分野の内容構成 4. 歴史的分野の内容構成 5. 公民的分野の内容構成 6. 学習指導案の作成と模擬授業の準備 7. 学習指導案の作成と模擬授業の準備 8. 模擬授業（１） 9. 模擬授業（２） 10. 模擬授業（３） 11. 模擬授業（４） 12. 模擬授業（５） 13. 模擬授業（６） 14. 模擬授業（７） 15. 評価問題の検討と学習評価	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領解説（平成 20 年 9 月）社会編』日本文教出版ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	地理・歴史科教育法 I	担当者	鈴木 孝
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業は世界史教育のあり方を具体的に提示する。平成 21 年 3 月に高等学校学習指導要領が告示され、その解説が同年 12 月に出されたこともあり、その視点を盛り込みながら、高等学校世界史を題材にした教科教育法としての講義となる。歴史学からのアプローチとして歴史認識の変遷を扱い、世界史教育に関わる教師としてのスキルアップを図る。授業実践論としては、授業を実際につくっていく際の教材研究のあり方を検討し、世界史 A および世界史 B の授業の留意点や新しい手法を提示する。また、世界史を理解する場合に不可欠な地理的な知識、授業観察力、資料の読み解き力などを演習する。 評価（単位認定）の基本は出席率とする。免許課程の科目なので、専門的知識の獲得よりは、出席し、授業に前向きにとりくむことが優先される。最後にレポートを課す。また、授業中の演習（3 回）の結果も成績に反映させる。		01 歴史認識…その所在と変遷… 02 歴史教育における世界史必修化の意義 03 <u>新学習指導要領による世界史教育…※</u> 04 教材研究…その精神と方法… 05 世界史 A の授業研究 06 世界史 A の授業①…諸地域世界の特質… 07 世界史 A の授業②…ネットワーク論による交流… 08 世界史 A の授業③…近現代の世界と主題学習… 09 <u>授業実践例と問題点の検討①…※</u> 10 世界史 B の授業研究 11 世界史 B の授業①…時間軸と空間軸… 12 <u>世界史 B の授業②…歴史資料の読み解き…※</u> 13 授業実践例と問題点の検討② 14 授業を工夫する① 15 授業を工夫する② （注）下線を施した※印の授業で演習あり	
テキスト、参考文献		評価方法	
パワーポイントを用いて講義を行い、必要な資料は毎時間配布する。		免許課程の科目なので出席数を基本とする。また授業中のワークシートおよび最終レポートの内容から総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	地理・歴史科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
高等学校における地理教育の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、授業実践上基礎的な知識・技能の育成を目指す。 本講義では、日本の地理教育史、各国の地理教育の現状を踏まえ、地理で身につけさせるべき見方・考え方・技能について実践的に考察する。 ＊高等学校「地理歴史科」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定済教科書を購入し、自習しておくこと。 『詳解地理 B』 二宮書店 『コンパクト地図帳』 二宮書店		1. 地理教育の意義と目標 2. 日本の地理教育の歩み 3. 諸外国の地理教育 4. 現行および次期学習指導要領の特色 5. 地理的見方・考え方について 6. 地図・地球儀の扱い方（１） 7. 地図・地球儀の扱い方（２） 8. 野外観察・調査の意義と計画 9. 野外観察の実践 10. 系統地理の学習指導（１） 11. 系統地理の学習指導（２） 12. 地誌の学習指導（１） 13. 地誌の学習指導（２） 14. 主題的学習の学習指導（１） 15. 主題的学習の学習指導（２）	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』参考文献は授業中に示される。		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03 年度以降	地理・歴史科教育法Ⅲ	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
歴史教育の「場」がどのように構成されてきたか、振り返ってみてほしい。その内容・教材構成・授業者と学習者、さまざまな要素とそれらの相互関係から成り立つ歴史教育（とりわけ日本史）のあり方を考察し討論することを通じて、教職を志す学生に授業を創造する力を養ってもらいたい。		1. 歴史を学ぶこと・教えること① 2. 歴史を学ぶこと・教えること② 3. 歴史研究と歴史教育① 4. 歴史研究と歴史教育② 5. 学習指導要領と教科書叙述① 6. 学習指導要領と教科書叙述② 7. 授業実践事例研究① 8. 授業実践事例研究② 9. 授業実践事例研究③ 10. 授業実践事例研究④ 11. 授業実践事例研究⑤ 12. 学習指導案の作成① 13. 学習指導案の作成② 14. 学習指導案の作成③ 15. まとめ なお、上記の計画は受講者の人数や授業展開により変更されることもある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は講義の中で紹介する。高等学校の学習指導要領と地理・歴史科の指導書は各自が用意すること。		授業への参加状況とレポートなどを総合的に評価する。状況に応じて簡単な小レポートを課すこともある。（許可なき途中退出などは厳禁）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	公民科教育法 I	担当者	海野 省治
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 中学校社会科公民分野および、高等学校公民科についての理解と、教員として指導に当たるための基本的で実践的な内容、考え方、指導上の工夫などの習得を目指す。 授業概要 社会・公民科の指導に当たっての基本姿勢を理解し、指導に当たっての教材研究方法を理解できる。指導方法や指導のヒント等を、身につけることが出来る。 模擬授業を通して、指導の実際を自分のものとする事が出来る。		1 ガイダンス・心構え等 2 公民科・社会科について 3 社会科・公民科教育の戦後の流れ 4 学習指導要領に見る中学校公民科の目標と内容概観 5 学習指導要領に見る高等学校公民科の目標と内容 6 社会科・公民科の指導 教材の発掘方法 7 教材研究の方法（その 1） 8 教材研究の方法（その 2） 9 指導方法の工夫 指導計画・指導案の作成（その 1） 9 指導方法の工夫 指導計画・指導案の作成（その 2） 10 教科書を用いて 1 中学「公民」学習指導例検討 11 教科書を用いて 2 高校「政治・経済」学習指導例検討 12 教科書を用いて 3 高校「倫理」学習指導例検討 13～14 模擬授業 ※模擬授業は希望者に実施 15 総括、公民科を指導する教員としての心構え、姿勢の点検	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントなど		レポートなどの提出物 試験 平常点などで評価	

03 年度以降	公民科教育法 II	担当者	海野 省治
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 中学・高等学校の公民科の指導内容と方法を、模擬授業を中心にして理解をする。教壇に立つ時は、公民科の教育の持つ意味を理解し、中学校公民分野と高等学校の「現代社会」「倫理」「政治・経済」3 科目のいずれも生徒に対し指導できることが望ましい。 最終的には、それぞれの科目の指導のポイントを会得していくと共に、公民科の教員としての基本的なあり方について、身につけてもらいたい。 講義概要 前半は、講義中心。その後は、模擬授業中心に。具体的なテーマに沿って指導方法・指導内容等について授業を組み立て、模擬授業を行い、終了後改善策を整理。		1 ガイダンス 2 公民科教員としての教養 3 学習指導要領の確認 4 年間学習指導計画の作成 5 どう教えるか：教材研究の仕方、指導方法の工夫 6 どう教えるか：教材研究の仕方、指導方法の工夫（その 2 授業実施までの手順） 7 指導方法の整理 指導案の作成 8～13 模擬授業 14 模擬授業を振り返って 授業研究及び定期考査と評価方法 15 総括 社会科教員としての心構え、準備は出来たかを点検する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントなど		レポートなどの提出物 試験 平常点などで評価	

03 年度以降	情報科教育法Ⅰ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。 情報科教育法Ⅰでは、情報科成立の背景から始めて、学習指導要領にもとづき情報科の内容を検討し、効果的な教育方法を考える。情報機器の利用方法を身につけると同時に学校におけるコンピュータ室の情報教室、学校全体の情報環境の整備・ネットワーク管理の基礎的な技能の育成も図る。		1 オリエンテーション 2 情報科成立の背景と意義 3 普通教科「情報」の目的 4 普通教科「情報」の科目構成と各科目の特色 5 専門教科「情報」の目的 6 専門教科「情報」の科目構成と内容の概略 7 学校における情報教育の環境 8 情報科教材研究（１）普通教科「情報」 9 情報科教材研究（２）普通教科「情報」 10 情報科教材研究（３）普通教科「情報」 11 情報科教材研究（４）普通教科「情報」 12 情報科教材研究（５）普通教科「情報」 13 情報科教材研究（５）専門教科「情報」 14 情報科教材研究（６）専門教科「情報」 15 情報科教材研究（７）専門教科「情報」	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03 年度以降	情報科教育法Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
高等学校教科としての情報科の目的、内容、方法、課題等について考察するとともに、情報科教員として必要な知識・技能の育成をめざす。 情報科教育法Ⅱでは、年間学習指導計画・学習指導案の作成、先進校授業参観、模擬授業を予定している。 なお、先進校授業参観については、参観先の都合等により日時をかねて行なう場合がある。		1 普通教科「情報」の特性と年間学習指導計画 2 専門教科「情報」の各科目の配置と年間学習指導計画 3 「情報」学習指導の実際（授業見学） 4 「情報」学習指導の実際（授業見学） 5 「情報」学習指導の実際（授業見学） 6 学習指導案の作成 7 学習指導案の作成 8 学習指導案の作成 9 模擬授業（１） 10 模擬授業（２） 11 模擬授業（３） 12 模擬授業（４） 13 模擬授業（５） 14 模擬授業（６） 15 情報教育のこれから	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』ほか		授業参加度を重視する。授業時に出される小課題(レポート)等も重要な評価材料である。	

03 年度以降	教科教育法特論 I	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講は、中学校における各教科の指導法に関する学習をさらに発展させるために、教科教育法の授業との関連を図りながら、中学校の教科教育に関する理解を広げ、教育課程及び各教科の指導法に関する学習を深めることを目的とする。 講義概要 本講では、中学校教育の目的・目標、中学校の教育課程における教科教育の意義と役割、教科教育と教科外教育との関係、学力と評価、教科教育の今日的課題等を明らかにすることによって、教科教育に関する理解を深める。そのうえで、今日の教科教育の重要な課題である、各教科の関連づけを図った教科横断的な学習指導についての理解を深めるために、いくつかのグループに分かれ、総合的学習との関連を図った教科学習の学習指導案を作成する。		1 確かな学力とは何か 2 中学校教育の教育課程 3 教科と総合的な学習 4 クロス・カリキュラムの作成(1) 5 クロス・カリキュラムの作成(2) 6 クロス・カリキュラムの作成(3) 7 クロス・カリキュラムの作成(4) 8 クロス・カリキュラムの作成(5) 9 クロス・カリキュラムの作成(6) 10 クロス・カリキュラムの作成(7) 11 クロス・カリキュラムの作成(8) 12 クロス・カリキュラムの作成(9) 13 クロス・カリキュラムの作成(10) 14 作成した学習指導案の発表・検討(1) 15 作成した学習指導案の発表・検討(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。		出席（7 割以上、厳守のこと）、グループ学習の活動内容、レポートによる総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教科教育法特論Ⅱ	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, we will be taking a different approach to teaching. Rather than simply study in dry textbooks about classroom teaching methods and techniques, we will be reading a book written by a teacher for teachers, a book detailing the teacher's teaching beliefs and experiences on teaching, teachers, and students. In addition, we will observe, through the use of video, three inspirational films detailing the teaching experiences of three teachers, their attitudes towards students and teaching, and the techniques they employed in the classroom to improve the learning of their students. By linking these two learning resources, it is hoped that the students in this class will gain a clearer and better understanding of what it means to be a teacher, of teaching, and of students. As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.		Week 1: Course introduction, pre-reading activities. Week 2: Reading activities, pre-viewing activities. Week 3: Video Ia, assignment Week 4: Video 1b, assignment Week 5: Post-viewing activities, pre-reading activities. Week 6: Reading activities, pre-viewing activities. Week 7: Video IIa, assignment Week 8: Video 1Ib, assignment Week 9: Post-viewing activities, pre-reading activities. Week 10: Reading activities, pre-viewing activities. Week 11: Video IIIa, assignment Week 12: Video 1IIb, assignment Week 13: Post-viewing activities. Week 14: Consolidation. Week 15: Review.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts		Grades are based on in-class participation, assignments, quizzes, and a final assessment.	

03 年度以降	教科教育法特論Ⅱ	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
In this course, we will be taking a different approach to teaching. Rather than simply study in dry textbooks about classroom teaching methods and techniques, we will be reading a book written by a teacher for teachers, a book detailing the teacher's teaching beliefs and experiences on teaching, teachers, and students. In addition, we will observe, through the use of video, three inspirational films detailing the teaching experiences of three teachers, their attitudes towards students and teaching, and the techniques they employed in the classroom to improve the learning of their students. By linking these two learning resources, it is hoped that the students in this class will gain a clearer and better understanding of what it means to be a teacher, of teaching, and of students. As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.		Week 1: Course introduction, pre-reading activities. Week 2: Reading activities, pre-viewing activities. Week 3: Video Ia, assignment Week 4: Video 1b, assignment Week 5: Post-viewing activities, pre-reading activities. Week 6: Reading activities, pre-viewing activities. Week 7: Video IIa, assignment Week 8: Video 1Ib, assignment Week 9: Post-viewing activities, pre-reading activities. Week 10: Reading activities, pre-viewing activities. Week 11: Video IIIa, assignment Week 12: Video 1IIb, assignment Week 13: Post-viewing activities. Week 14: Consolidation. Week 15: Review.	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts		Grades are based on in-class participation, assignments, quizzes, and a final assessment.	

07 年度以降	教科教育法特論Ⅱ	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の目的 英語科指導に必要な教員の英語運用力向上を目標とする。 授業概要 教育現場での各技能および領域における指導項目を対象として、教師としての資質を高めるための訓練を行う。授業では実際の指導場面を想定し、モデル提示の後、ペアもしくはグループによる共同学習活動を行う。 参考文献 松坂ヒロシ、『英語音声学入門』(研究社出版, 1986; ISBN 4327375047) M. A. K. Halliday & R. Hasan, <i>Cohesion in English</i> (Longman, 1976; ISBN 978-0582550414)		1. 英語教師に求められる言語運用能力 2. 発音(文節音素 1, IPA) 3. 発音(文節音素 2, IPA) 4. 発音(超文節音素) 5. 語彙・形態素 6. 文法(修飾・統御) 7. 文法(文型 1) 8. 文法(文型 2) 9. 文法(文型 3) 10. 文法(時制・相・態・法 1) 11. 文法(時制・相・態・法 2) 12. 文法(時制・相・態・法 3) 13. 文法(指示・代用・省略) 14. 談話(構成) 15. 談話(ステラテジー)	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋作太郎、『英語教師の文法研究』(大修館書店, 1983; ISBN 4469141526)		小テストおよび授業時の課題	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	道徳教育の研究	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 本講義は、①道徳に関する歴史、②昨今の教育改革における道徳の位置づけと大きくわけて2つの「理論編」の講義と、指導案を作成し、模擬授業を行う、という「実践編」の2つの柱で構成される。これらを通じて、道徳教育に関する実践力を身につけることを目的としている。 ●講義概要 上記のように前半における理論編では講義中心で行う。後半の指導案作成・模擬授業においてはグループをつくり、実際に自身で教材を探し、「道徳の時間」を構成する。受講人数によるが、いくつかのグループは実際に模擬授業を行う予定である。		1. 講義に関するガイダンス 2. ～高校における道徳教育必修化をどう考えるか 3. 道徳教育の歴史① 4. 道徳教育の歴史② 5. 道徳教育の歴史③ 6. 小テスト&指導案をつくる 7. 指導案の検討① 8. 指導案の検討② 9. ～15まで、模擬授業と振り返り	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中にプリントを配布する。		小テスト、レポート、指導案作成などを総合的に評価。	

03 年度以降	道徳教育の研究	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	道徳教育の研究	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講は、児童生徒の社会性やモラルの低下など、今日の学校教育をめぐる問題状況をふまえながら、児童・生徒の人間形成においてきわめて重要な役割を果たす道徳教育の目的、内容、方法及びその今日的課題について考察することを目的とする。 講義概要 道徳教育は、人間形成の基礎にかかわるものであり、人間が社会の中で人間として生きていくために不可欠の内容を有している。本講では、道徳教育の意義と目的、学校教育における位置と役割についての基本的理解を得たうえで、道徳について考えるうえでの基本的な問いを「教育において『いのち』のもつ意味は何か」と捉え、その観点から、今日の道徳教育の現状を分析し、その特徴と問題点を明らかにし、一人ひとりの子どもの「生きる力」の育成に資する道徳教育とは何かについての検討を加える。		1 自分の道徳教育体験を振り返る 2 道徳とは何か(1) 3 道徳とは何か(2) 4 学校教育における道徳教育の位置と役割(1) 5 学校教育における道徳教育の位置と役割(2) 6 新教育課程における道徳教育の課題 7 「いのち」の教育とは何か 8 「いのち」を考える授業(1) 9 「いのち」を考える授業(2) 10 「いのち」を考える授業(3) 11 学習指導案の作成(1) 12 学習指導案の作成(2) 13 模擬授業(1) 14 模擬授業(2) 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 道徳編』『心のノート 中学校』その他は、講義の中で紹介する。		出席（7 割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 08年度以降	特別活動 特別活動論	担当者	及川 良一
講義目的、講義概要		授業計画	
学校教育における「特別活動」の意義や基本的性格、歴史的変遷等について考察するとともに、「高等学校学習指導要領解説特別活動編」を中心に、「特別活動」の目標や内容、指導計画の作成と内容の取り扱い等について具体的に検討する。また、「特別活動」の内容に関する具体的な進め方や今日的な課題への対応等について検討し、「特別活動」に関する実践的な指導力を養うことを目的とする。さらに、現在の中高等教育の課題を明らかにした上で、特別活動のもつ今日的意義について考察を行う。 テキスト、配布プリント等を用いて講義中心の授業を行うが、演習では指導計画の作成や模擬展開を通して実践的な指導力を養う。		1 特別活動の意義 ①学校教育と特別活動 ②特別活動の歴史的変遷 2 『高等学校学習指導要領解説特別活動編』の研究 ③総説 ④特別活動の目標 ⑤特別活動の基本的な性格と教育的意義 ⑥ホームルーム活動の目標と内容 ⑦生徒会活動の目標と内容 ⑧学校行事の目標と内容 ⑨指導計画の作成にあたっての配慮事項 ⑩内容の取扱いについての配慮事項 ⑪特別活動における評価 3 特別活動演習 ⑫ホームルーム活動の指導計画の作成 ⑬生徒会活動の指導計画の作成 ⑭学校行事の指導計画の作成 4 ⑮講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
文科省『高等学校学習指導要領解説特別活動編』海文堂出版（平成21年12月） 参考文献 山口満編『新版特別活動と人間形成』学文社		指導案、レポートまたは定期試験、出席状況等で総合的に評価する。ただし、7割以上の出席者の評価を対象とする。	

03年度以降 08年度以降	特別活動 特別活動論	担当者	及川 良一
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降 08 年度以降	特別活動 特別活動論（交流文化学科生・総合政策学科生）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目的】 本講義は、特別活動に関する基本的・基礎的な知識と特別活動の在り方や動向に関する知識を修得し、特別活動の特質や本質を踏まえた実践的指導力を育成することを目的とする。 【講義概要】 特別活動の教育的意義や教育課程上の位置付け、目標と内容、指導計画の作成、指導方法などについて、講義と演習、模擬授業などを通して、現場実践に基づいて学ぶ。		1 オリエンテーション 2 特別活動と教育課程 3 特別活動の内容と変遷 4 特別活動の意義と目標 5 特別活動と諸教育指導 6 生徒会活動の目標と内容 7 生徒会活動の指導計画 8 学級活動の目標と内容 9 学級活動の指導計画 1 10 学級活動の指導計画 2 11 学級活動の模擬授業 12 学校行事の目標と内容 13 学校行事の指導計画 1 14 学校行事の指導計画 2 15 学校行事の指導計画 3	
テキスト、参考文献		評価方法	
『実践的指導力をはぐくむ』『特別活動指導法』 渡部邦雄・緑川哲夫・桑原憲一編 日本文教出版		平常点（20%）、指導案（30%）、試験（50%）により、出席 3 分の 2 以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

03 年度以降	教育方法学	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
・本講義は教育職の重要性を再検討し、学校教師の役割と機能を確認する。また、各自の教育方法に関する基礎を養成するものである。 ・講義概要 人間の一生は、日常の様々な直接経験、本、雑誌、TV、インターネットなどのメディアを利用した間接経験、そして言語による理性的・感性的経験を通しての成長過程である。言い換えれば、人間は成熟するまでに非常に長い年月を必要とし、その過程にあっては多くの他者との関わりあいが必要である。「蛙の子は蛙」という故事は、人間の成長過程とは異なるものを的確に言い表している。そこには、子どもは他者との様々な相互作用（異なった対応の仕方など）を通して、一人前の人間になっていくというとらえ方がある。教育職は子どもの成長過程に「意図的」に参画する重要な媒介者である。		1. プロローグ：概要説明 2. コミュニケーションと教育・学習 3. 教師の役割 4. 授業を問いかける 5. 視聴覚メディア 6. ビデオ教材による教育現場 7. 校外専門家による授業 8. グループ討論① 9. 授業設計 10. 測定とは？ 11. 評価とは？ 12. 教育方法のイメージ 13. ある高等学校の教育実践ビデオ 14. グループ討論② 15. エピローグ：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐賀啓男編著（2010）『視聴覚メディアと教育』樹村房、伊藤功一（1992）『魂にうたえる授業』NHKブックス、ほか		・出席：15%、個人レポート：15%、グループレポート：40% ・定期試験：30%	

03 年度以降	教育方法学	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育方法学	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講は、今日の学校教育、とりわけ授業の構成と展開をめぐる問題状況を踏まえながら、教育方法の研究、実践に関する今日的な課題について考察することを目的とする。 講義概要 毎日の授業をどのように工夫したらよいのか、子どもたちの個性を最大限に生かせるような指導とは何か等の問いに代表されるように、授業の内容とその方法に関する諸問題は、学校教育における最も重要な課題の一つである。本講では、教育方法学のうち、特に授業研究の問題に焦点をあて、授業研究を行ううえでの基本的な考え方はどのようなものであるのか、授業を成り立たせている構成要素は何か、授業を展開する具体的な方法とは何か等の問題について、各種資料やVTRによる授業記録などを用いながら多面的に検討を加え、授業研究に関する理解を深めていく。		1 自分の授業体験を振り返る 2 授業とは何か 3 教育実習生の授業 4 ベテラン教師の授業 5 教材研究とは何か(1) 6 教材研究とは何か(2) 7 教材研究の事例の検討(1) 8 教材研究の事例の検討(2) 9 教材研究の事例の検討(3) 10 教材研究とメディア 11 新教育課程と授業 12 林竹二の授業論から見た今日の授業研究の課題(1) 13 林竹二の授業論から見た今日の授業研究の課題(2) 14 林竹二の授業論から見た今日の授業研究の課題(3) 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。		出席（7 割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	生徒指導法	担当者	海野 省治
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的、 教員は、校種の如何を問わず、児童・生徒に対する何らかの指導は、常にある。ここでは、授業や行事等日常の学校生活において、教員として、又は学校として行うべき生徒指導についての基本的な考え方や、その方法、好ましい導き方などについて学ぶ。教育相談や更には、中・高校生の心理についても検討をし、指導の理解を進める。 講義概要 前半は講義中心。後半は事例研究。事例を出来るだけ沢山用意し、その対応の仕方、そのための意見交換などを行って授業を進める。		1 オリエンテーション 2 生徒指導の意義と実際 3 学校における生徒指導組織・指導体制 4 生徒理解・青年期の心 5 生徒指導の進め方と教育相談 6 生徒指導と外部機関との連携 7 道德教育との関連を考える 8 進路指導・キャリア教育のあり方 9～14 指導事例に基づく対応の仕方研究 ・進路指導事例、教科指導上の事例、学校行事の事例、問題行動の事例など 15 あらためて生徒指導とは何か	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省「指導要領提要」 教育図書 ¥290		レポートなどの提出物 試験 平常点などで評価	

03 年度以降	生徒指導法	担当者	海野 省治
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	生徒指導法	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 本講義は、今日、生徒が直面する様々な生徒指導上の課題に正対し、適切な指導・援助を行うことができるよう生徒指導の基礎・基本を修得するとともに、実践的な指導能力を育成することを目的とする。 【概要】 本講義では、講義、グループ討議、演習を通して、具体的な実践課題に基づきながら生徒指導の意義・目的・組織・方法を中心に理解を深めていく。生徒指導は、生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、社会的な資質や能力・態度を育成するとともに、将来において社会的な自己実現を図ることができる資質や態度を形成するための指導・援助である。社会的な存在として、自ら人生の目標を選択、設定し、追求し、自己実現を図ろうとする資質や能力・能力を育成する実践的な生徒指導について学ぶ。		第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：生徒指導の意義と目的・内容 第 3 回：生徒指導の全体指導計画 第 4 回：生徒指導組織と指導体制 第 5 回：生徒理解と教育相談の基礎基本 第 6 回：学業指導、適応指導、健康安全指導の在り方 第 7 回：進路指導・キャリア教育の在り方 第 8 回：人間関係づくりエクササイズ 1 第 9 回：人間関係づくりエクササイズ 2 第 10 回：人間関係づくりエクササイズ 3 第 11 回：課題解決学習 1（基本的生活習慣の確立） 第 12 回：課題解決学習 2（非行・問題行動への対応） 第 13 回：課題解決学習 3（不登校問題の解決） 第 14 回：課題解決学習 4（学校危機管理への対応） 第 15 回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎に配布する資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点（30%）、課題レポート（20%）、試験（50%）により、出席 3 分の 2 以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	学校カウンセリング	担当者	瀧本 孝雄
講義目的、講義概要		授業計画	
まず初めに教育相談とは何かについて考察し、その具体的内容について検討する。次に、カウンセリングについての理論、技法等について全般的に学習する。 さらに学校カウンセリングの目標と方法に関して具体的に学習する。特にいじめ、校内暴力、非行、情緒障害等について、教育相談との関連において考察していく。さらに心理テストの役割について概説し、カウンセリングにおける心理テストの役割を考察したうえで、実際に心理テストを実施する。 また、養護教諭、学校医、スクールカウンセラー等の職務の実際や連携について考察する。		第1回：ガイダンス 第2回：グループ・ワーク 第3回：教育相談とは何か 第4回：教育相談の内容 第5回：養護教諭、学校医の役割 第6回：スクールカウンセラーの役割 第7回：カウンセリングの目的とその意義 第8回：カウンセリングの理論と技法 第9回：学校カウンセリングの目的と特徴 第10回：学校カウンセリングの方法 第11回：中学生・高校生と学校カウンセリング 第12回：生徒の問題行動 第13回：生徒の精神衛生 第14回：心理テストの理論と実際 第15回：全体のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『カウンセリングへの招待』瀧本孝雄著 サイエンス社 2006		評価方法は講義、グループ・ワークに関する小テスト、レポートおよび出席状況による。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	学校カウンセリング	担当者	松尾 由美
講義目的、講義概要		授業計画	
学校カウンセリングとは、生徒の心の発達を援助し、対人関係を改善したり、社会的適応性を高めることを目標とする活動であり、学校現場を取り巻く様々な問題を解決するために、近年ますます重要視されています。 この講義では、教員が学校で生徒と接する際に必要な基礎的なカウンセリングの基本的な理論や技法について講義します。さらに、実習やグループワークなどを通じ、いじめ、不登校など学校現場で実際に起こっている問題について、どのように対応すべきか、実際に考えてもらいます。カウンセリングに関する「知識」を習得することにとどまらず、学校現場で起こりうる様々な問題への対処について、自分自身で「考える力」を身につけることがこの講義の目標です。ですので、授業中の実習やグループワークへの積極的な参加を求めます。		1. 講義の概要 2. 教師が行う学校カウンセリングの特徴 3. 学校カウンセリングの理論① ：来談者中心療法とカウンセリングマインド 4. 学校カウンセリングの理論② 5. 予防的カウンセリング①：構成的グループエンカウンター 6. 予防的カウンセリング②：ソーシャルスキルトレーニング 7. 予防的カウンセリング③：ライフスキルトレーニング 8. 思春期の心の発達と危機 9. 学校カウンセリングの実際①：いじめ 10. 学校カウンセリングの実際②：不登校・ひきこもり 11. 学校カウンセリングの実際③：非行 12. 学校カウンセリングの実際④：発達障害の理解と支援 13. 学校カウンセリングの実際④：精神障害の理解と支援 14. 学級運営に活かすカウンセリング 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。プリントを配布する。 参考文献は、授業中に適宜紹介する。		評価方法：期末試験の結果（70%）によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの提出物や実習への参加（30%）も評価対象とする。	

03 年度以降	学校カウンセリング	担当者	松尾 由美
講義目的、講義概要		授業計画	
学校カウンセリングとは、生徒の心の発達を援助し、対人関係を改善したり、社会的適応性を高めることを目標とする活動であり、学校現場を取り巻く様々な問題を解決するために、近年ますます重要視されています。 この講義では、教員が学校で生徒と接する際に必要な基礎的なカウンセリングの基本的な理論や技法について講義します。さらに、実習やグループワークなどを通じ、いじめ、不登校など学校現場で実際に起こっている問題について、どのように対応すべきか、実際に考えてもらいます。カウンセリングに関する「知識」を習得することにとどまらず、学校現場で起こりうる様々な問題への対処について、自分自身で「考える力」を身につけることがこの講義の目標です。ですので、授業中の実習やグループワークへの積極的な参加を求めます。		1. 講義の概要 2. 教師が行う学校カウンセリングの特徴 3. 学校カウンセリングの理論① ：来談者中心療法とカウンセリングマインド 4. 学校カウンセリングの理論② 5. 予防的カウンセリング①：構成的グループエンカウンター 6. 予防的カウンセリング②：ソーシャルスキルトレーニング 7. 予防的カウンセリング③：ライフスキルトレーニング 8. 思春期の心の発達と危機 9. 学校カウンセリングの実際①：いじめ 10. 学校カウンセリングの実際②：不登校・ひきこもり 11. 学校カウンセリングの実際③：非行 12. 学校カウンセリングの実際④：発達障害の理解と支援 13. 学校カウンセリングの実際④：精神障害の理解と支援 14. 学級運営に活かすカウンセリング 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは用いない。プリントを配布する。 参考文献は、授業中に適宜紹介する。		評価方法：期末試験の結果（70%）によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの提出物や実習への参加（30%）も評価対象とする。	

09 年度以前	総合演習	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講は、教師を志望する学生が、今日の小・中・高等学校の教育において求められている「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身に付けるために、現代社会に存在する諸問題に関する課題解決的な学習についての実践演習を行うことを目的とする。 講義概要 本講では、中学校・高等学校における課題解決的な学習を想定し、生徒が日々の生活や学習で直面する現代的な課題（たとえば、環境、食と健康、国際理解、多文化共生、情報とコミュニケーション等）に関するグループ研究、グループ発表、相互評価を行う。		1 総合演習の意義とねらい、グループ分け 2 各グループにおける学習テーマの設定(1) 3 各グループにおける学習テーマの設定(2) 4 グループ研究(1) 5 グループ研究(2) 6 グループ研究(3) 7 グループ研究(4) 8 グループ研究(5) 9 グループ研究(6) 10 グループ研究(7) 11 グループ研究(8) 12 グループ研究(9) 13 グループ研究(10) 14 グループ研究(11) 15 グループ研究の評価と反省	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総合的な学習の時間編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総合的な学習の時間編』その他は、講義の中で紹介する。		出席（7 割以上、厳守のこと）、レポートによる総合評価。 * 春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること。	

09 年度以前	総合演習	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以前	総合演習	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の到達目標及びテーマ： 本講は、教師を志望する学生が、今日の小・中・高等学校の教育において求められている「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」を身に付けるために、現代社会に存在する諸問題に関する課題解決的な学習についての実践演習を行うことを目的とする。 授業の概要： 本講では、中学校・高等学校における課題解決的な学習を想定し、生徒が日々の生活や学習で直面する現代的な課題（たとえば、環境、食と健康、国際理解、多文化共生、情報とコミュニケーション等）に関するグループ研究、グループ発表、相互評価を行う。 授業では主にレクリエーション的な活動を通して、良好な人間関係の構築とコミュニケーション能力の育成をテーマとする。 特に獨協大学の総合演習の特徴として、春または秋に実施する合宿自然体験学習を実施する。学生に野外における小グループでの直接体験学習の機会を与え、学生の自然体験活動経験を増加させ、その過程で起こる人間関係を含む課題解決の場を提供し、現実には指導場面で起こりうる状況を解決する能力の育成に役立てることを目的にしている。		1 総合演習の意義とねらい 2 アイスブレイキングを目的とした活動 3 イニシアティブゲーム体験 4 リーダーシップについての討論 5 指導計画の立案の方法 6 グループによるゲーム指導計画の作成 7 ゲーム企画のプレゼンテーション 8 企画の実施（全グループによる指導体験） 9 相互評価とふりかえり 10 「90 分企画コンテスト」に向けたグループワーク 11 指導計画の作成とプレゼンテーション準備 12 プレゼンテーション 13 選出グループによる企画の実施 14 評価とふりかえり 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じてプリントを配布		出席状況、授業レポート、期末レポート、グループ活動参加態度によって総合的に評価 ＊春または秋に実施される総合演習体験学習に必ず参加すること	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以前 10 年度以降	教育実習論 I (事前指導) 教育実習論(事前・事後指導)	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習の事前指導として、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする。また、実習生としての心構え、実習期間中の留意点等についてもふれ、教育実習に関する理解を深めていく。		第 1 回：教育実習とは何か 第 2 回：教育実習の概要 第 3 回：HR 指導(1) SHR 第 4 回：HR 指導(2) 清掃指導と給食指導 第 5 回：HR 指導(3) LHR の役割 第 6 回：HR 指導(4) 生活指導について 第 7 回：HR 指導(5) 進路指導 第 8 回：特別活動指導(1) 第 9 回：特別活動指導(2) 第 10 回：課外活動指導 (1) 第 11 回：学習指導(1) 第 12 回：学習指導(2) 第 13 回：模擬授業(1) 第 14 回：模擬授業(2) 第 15 回：教育実習期間中の諸注意	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。		出席、授業参加度、レポートによる総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以前 10 年度以降	教育実習論 I (事前指導) 教育実習論(事前・事後指導)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
第一に、教育実習の意義（教職課程上の位置付け等）を講義し、教育実習の実際を、実習を終えた四年生から学びます。これを通じて、実習を迎える心構えと準備を確かなものにします。 第二に、実習校種別にグループを作って、四年生（実習修了生）の援助の下に、模擬授業を行います。これによって、教案の書き方、授業準備の仕方、授業の進め方や注意点など実践的な技法を、きめ細かく学びます。		1～3 回 教育実習の意義および実習の実際について 4～6 回 校種別実習計画づくり 7～14 回 校種別模擬授業実施 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『教育実習の指針』		出席と、作成した教案等を勘案して、期末レポートに加味します。出席は 6 割が必須です。	

09 年度以前 10 年度以降	教育実習論 I (事前指導) 教育実習論(事前・事後指導)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 教育実習にいく前の最後の授業であるので、主にこれまで教科指導法等で学んだ授業方法や、生徒指導を踏まえ、実習前の実践的なそうまとめることが目的である。 ●講義概要 1. ～ 3. までは、教育実習についてのビデオ等を視聴し、実習の概要をつかむ。また十種予定校について調べ、それを互いに発表することで様々な学校の概要や、その特徴にあった指導等を共有する。 4 では近隣の高等学校に実際に授業見学をさせてもらい、実際の授業や生徒の様子を把握する。 9 ～ 14 では、指導案を作成し、模擬授業を行う。これによって、教案の書き方、授業準備の仕方、授業の進め方や注意点などを、再度きめ細かく学ぶ。また、他の人の授業に参加し、コメントを共有することで自身の模擬授業に反映させる。		1. ガイダンス・自己紹介等 2. 教育実習の概要（1）生活指導編 3. 教育実習の概要（2）学習指導編 4 学校見学 5. 学習指導案を作成する① 6 学習指導案を作成する② 7. 学習指導案を検討する 8. ～ 14. 模擬授業 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
		①出席、発言などの授業への貢献、②指導案やレポートの提出などを評価する。	

09 年度以前 10 年度以降	教育実習論 I (事前指導) 教育実習論(事前・事後指導)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以前 10 年度以降	教育実習論 I (事前指導) 教育実習論(事前・事後指導)	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講は、教育実習の意義や目的、その概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を行うことにより、教育実習に向けての準備を進めることを目的とする。 講義概要 教育実習は、これまで大学の教職課程で学んできたことの成果を、実習校での学校運営に教育実習生として直接参加することによって、具体的に実証する機会である。本講では、教育実習の事前指導として、教育実習に参加することの意義や目的、実習期間中の学校生活の概要を理解するとともに、学習指導案の作成、基礎的な指導技術の習得、模擬授業等を体験することにより、実習における学習のポイントを明確にする。また、実習生としての心構え、実習期間中の留意点等についてもふれ、教育実習に関する理解を深めていく。		1 教育実習とは何か 2 教育実習の概要 3 授業を見る(1) 4 授業を見る(2) 5 授業を見る(3) 6 授業を見る(4) 7 授業のスキル 8 授業の評価 9 学習指導案の作成(1) 10 学習指導案の作成(2) 11 模擬授業(1) 12 模擬授業(2) 13 模擬授業(3) 14 模擬授業(4) 15 教育実習期間中の諸注意	
テキスト、参考文献		評価方法	
獨協大学『教育実習の指針』文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。		出席（8 割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09 年度以前 10 年度以降	教育実習論 I (事前指導) 教育実習論(事前・事後指導)	担当者	岩崎 充益
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的： 教師にとってその日、その日の授業は真剣勝負です。一時たりとも無駄に出来ません。 教育実習は幾週間かの授業を学校から提供してもらい、実際に授業をする機会が与えられるシステムです。 教育実習生の受け入れにあたり、大切な授業を提供するわけですから学校側は実習生に大きな期待を抱きます。 より多くの優れた人材が教育界で活躍し、未来の使者である児童・生徒の教育に献身的にあたることを期待しているのです。この講義を通じて教育実習の重みを知ってもらいたいと思います。 講義の概要： どんな人も最初に出会う大人が教師です。教師と出会い、影響をうけ成長していきます。教師という職業は大変責任のともなう仕事です。 教師という職業の重要性、現代教育事情、生徒との付き合い方、実際の授業運営の方法などを実践演習を通じて学びます。		① 教師という職業・教育実習の意義 ② 現代教育事情 I ③ 現代教育事情 II ④ 授業参観のポイントと研究授業 ⑤ 生活（生徒）指導と生徒理解 ⑥ 学校運営組織と校務分掌 ⑦ 教育課程の編成 ⑧ 教科外活動・道徳活動・奉仕活動他 ⑨ 学校における危機管理・事例研究 ⑩ 授業の進め方と単元指導計画書の作成 I ⑪ 授業の進め方と単元指導計画書の作成 II ⑫ 授業実践演習 I ⑬ 授業実践演習 II ⑭ 授業実践演習 III ⑮ 講評・評価	
テキスト、参考文献		評価方法	
『教育実習の指針』獨協大学		授業の中の presentation、課題図書を読んで reaction paper（単なる感想文ではありません）、単元指導計画書で総合的に判断する。（8割以上の出席者を評価対象とする）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育実習論Ⅱ(事後指導)	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
第一に、実習校や実習の交流を行い、学校による違いや反省点を明確にします。 第二に、これから実習を迎える三年生（実習前の四年生）を対象として、実習の実際を伝えていきます。 第三に、三年生が行う校種別の模擬授業を指導し、教案の作成の仕方、授業準備の仕方等を教えます。また、実習に関する最新の注意を与えます。このことを通じて、自らの実習を詳しく振り返るとともに、指導の仕方や教え方そのものを学ぶことができます。		1～3 回 教育実習の意義および実習の実際について 4～6 回 校種別実習計画づくり 7～14 回 校種別模擬授業実施 15 回 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『教育実習日誌』		出席と、指導して作成した教案等を勘案し、期末レポートに加味します。出席は 6 割が必須です。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育実習論Ⅱ(事後指導)	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】 本講義は、教育実習の事後指導として教育実習の反省とフォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。 【概要】 本講義では、教育実習の反省を通して、教育実習の体験に基づいた教職に対する各自の資質向上の課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図る。		第 1 回：教育実習体験の発表 第 2 回：実習課題レポートの作成 第 3 回：サービスの課題解決 第 4 回：生徒指導の課題解決 第 5 回：学級経営の課題解決 第 6 回：教科学習指の課題解決 第 7 回：補助教材や教育機器の課題解決 第 8 回：コミュニケーション能力の課題解決 第 9 回：授業評価の課題解決 第 10 回：学習指導案作成の課題解決 第 11 回：学習指導案の作成(1) 第 12 回：学習指導案の作成(2) 第 13 回：模擬授業 1 第 14 回：模擬授業 2 第 15 回：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
獨協大学「教育実習の指針」、文部科学省「中学校学習指導要領」・「中学校学習指導要領解説 総則編」参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点 (50%)、レポート (50%) により、出席 3 分の 2 以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

03 年度以降	教育実習論Ⅱ(事後指導)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
●講義目的 この講義は、すでに教育実習を終えた学生を対象に、教育実習の振り返りをするを目的としている。 自身の実習を総括し、これから教師として成長するために必要なことを検討し、そのための方法を考える。 ●講義内容 おもに1～3ではグループになり、①授業編、②生活指導編、③指導案その他で教育実習を振り返る。他校に行った学生の指導案や日誌を見ることで自身との共通点や差異を見つけ、ディスカッションする。 5～6ではそれらのディスカッションを踏まえ、指導案を作成し、互いの授業の工夫などについても再度ディスカッションを行う。 7～13にかけては、そこで作成した指導案について、模擬授業を実施し、検討する。		1. ガイダンス（自己紹介等） 2. 実習の振り返り（生活指導） 3. 実習の振り返り（指導案） 4. 実習の振り返り（授業） 5. 指導案を作成する 6. 指導案を検討する 7～14. 模擬授業 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
持参するもの：教育実習日誌、教科書、指導案 参考文献：あれば授業中に指示する		①授業への参加、発言などの貢献、②指導案、③他の受講生へのコメント、④模擬授業などを総合的に評価する。	

03 年度以降	教育実習論Ⅱ(事後指導)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	教育実習論Ⅱ(事後指導)	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 本講は、教育実習の事後指導として、教育実習の反省・フォローアップを行い、教師としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。 講義概要 本講では、教育実習の反省を行うとともに、教育実習の体験に基づいて、教職に向けての各自の学習課題を整理し、教師としての心得と職務、近年の教育改革の現状と学校が直面している諸問題についての理解を深めつつ、実践的指導力の形成を図ることに よって、学校教育に関する理解を深めていく。		1 教育実習の体験の発表 2 教育実習レポートの作成 3 発問 4 板書 5 各種資料及び機器の活用 6 生徒とのコミュニケーション 7 授業評価 8 近年の教育改革の現状と課題 9 学習指導案の作成(1) 10 学習指導案の作成(2) 11 模擬授業(1) 12 模擬授業(2) 13 模擬授業(3) 14 模擬授業(4) 15 模擬授業(5)	
テキスト、参考文献		評価方法	
文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。		出席（8 割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

03 年度以降	介護ボランティアの理論と実践	担当者	保科 寧子
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、高齢者福祉を中心とした介護全般と、ボランティアの概念及び介護現場でのボランティア実践について概観します。 また本講義は教職課程における「介護等体験」履修時に、「介護」の必要な方と接する際に求められる基礎知識について理解を深めておくことも目的としています。 具体的には介護の概念、高齢者福祉分野の法体制、介護技術、介護の実際等を学びます。さらにボランティアとして介護にかかわるために、ボランティアの概念、日本におけるボランティアの歴史・動向から介護現場でのボランティア実践の紹介まで幅広くボランティアについて学習します。		1.介護とは何か？ 2.介護の歴史・定義・概念 3.介護の現場を理解する（高齢者）1 4.介護の現場を理解する（障害者）2 5.介護をとりまく制度政策 1（社会福祉法令関係） 6.介護をとりまく制度政策 2（介護保険法） 7.介護をめぐる諸問題 8.介護技術 1（基本姿勢と基本技術） 9.介護技術 2（認知症への対応） 10.介護技術 3（介護の計画・アプローチ） 11.ボランティアの歴史・定義 12.日本で展開されているボランティア活動 13.ボランティア活動における留意点 14.介護現場におけるボランティア活動（話し相手ボランティア他） 15.まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しません。 参考文献は講義中に適宜紹介します。		出席状況と講義中に課す小レポート及び期末テスト（またはレポート）によって評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	日本史概説Ⅰ	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
近年の日本史研究では、日本列島に展開した歴史像がより多角的、多面的な捉えなおされており、今日では一定の成果を確認することができる。こうした研究状況をふまえ、前近代を素材に文字史料の読み直しとともに非文字史料にも着目し、それぞれの時代像や歴史認識を豊かにするために重要と思われるテーマを講義していきたい。 極めて限られた時間数の中での講義のため、歴史経過にそって通史的に講義することは必要最低限にとどめるとともに、取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があることも予め了承しておいていただきたい。 高校までの歴史学習で習得した歴史の流れをふまえて授業にのぞむことが授業を退屈にさせないカギとなるだろう。		1. プロローグ的に一日本とは？歴史とは？— 2. 日本における歴史研究の歴史—史学史①— 3. 日本における歴史研究の歴史—史学史②— 4. 古代の社会—弥生のムラとクニ①— 5. 古代の社会—弥生のムラとクニ②— 6. 古代の社会—ワカタケル大王の時代— 7. 古代の社会—律令制の形成と展開— 8. 中世の社会—絵図にみる百姓と武士の世界①— 9. 中世の社会—絵図にみる百姓と武士の世界②— 10. 中世の社会—洛中洛外図を読み解く①— 11. 中世の社会—洛中洛外図を読み解く②— 12. 中世の社会—洛中洛外図を読み解く③— 13. 中世から近世へ① 14. 中世から近世へ② 15. まとめ なお、上記の計画は授業展開により変更されることもある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用せず、参考文献は講義の中で随時、紹介・配布する。高等学校の日本史の教科書や概説書が手元にあれば参考になる。		試験とともに授業内容に応じて課す小レポートなどをもとに、出席状況も含め総合的に評価する。（許可なき途中退出などは厳禁）	

03 年度以降	日本史概説Ⅱ	担当者	會田 康範
講義目的、講義概要		授業計画	
日本史概説Ⅰに続くこの講義では、近現代を素材としていく。その際、対外関係を基軸に考察していくが、その前提となる前近代の対外関係についても扱うことになる。この講義を通じて、現代の国際化社会における日本のあり方、さらには歴史教育のあり方などをめぐって受講生とともに考えていきたい。		1. 古代・中世の自国認識と他国認識① 2. 古代・中世の自国認識と他国認識② 3. 海禁と華夷秩序の形成・展開 4. 日本型華夷秩序構築の可能性と展開 5. 「鎖国」論をめぐって① 6. 「鎖国」論をめぐって② 7. 近世の本草学と博物学① 8. 近世の本草学と博物学② 9. 近代の対外認識① —「近代」と「他者」へのまなざし— 10. 近代の対外認識② —「近代」と「他者」へのまなざし— 11. 国民国家論とは 12. 博覧会・博物館と国民国家① 13. 博覧会・博物館と国民国家② 14. 戦争の世紀と万博 15. まとめ（エピローグ的に） —こんにちの歴史学・歴史教育の課題— なお、上記の計画は授業展開により変更されることもある。	
テキスト、参考文献		評価方法	
特定のテキストは使用せず、参考文献は講義の中で随時、紹介・配布する。高等学校の日本史の教科書や概説書が手元にあれば参考になる。		試験とともに授業内容に応じて課す小レポートなどをもとに、出席状況も含め総合的に評価する。（許可なき途中退出などは厳禁）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	外国史概説 I	担当者	兼田 信一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、はじめに現代中国の地理的・風土の特徴と最近の中国事情や社会問題を概観した後、新石器時代から唐帝国滅亡までの歴史を、政治的展開、周辺諸民族との関係、農村社会の展開、の3つを軸に概観していく。 農村社会に注目するのは、農村こそ前近代中国において多くの人々の生きる場であったにもかかわらず、そこでどのような生活が営まれていたのか、あまり知られていないからである。 そこで、単に新石器時代から唐代末期までの政治的展開を概観するだけでなく、この時期の農村社会の展開も見ることで、そこから窺える中国社会の特質を考え、中国に生きる人々を理解する一助としてもらいたい。		1. オリエンテーション 2. 現代中国事情 3. 中華文明の形成 4. 最初の社会変動と小家族農民の登場 5. 皇帝支配の成立と郷里社会① 6. 皇帝支配の成立と郷里社会② 7. 豪族の成長と郷里社会の崩壊 8. 新集落の登場と貴族制 9. 中国社会の分裂と東アジア 10. 中国社会の再統一と東アジア 11. 唐律令体制と郷里社会 12. 唐帝国と周辺諸国 13. 律令制の動揺、藩鎮体制、唐の滅亡 14. 南宋「清明集」の世界 15. まとめ（中国社会の特質）	
テキスト、参考文献		評価方法	
堀敏一『中国通史』（講談社学術文庫）、講談社。 講義中に配布するプリント・資料を基本テキストとする。 また、参考文献も講義中に紹介する。		出席状況（3割）と筆記試験（7割）（語句記述、史料問題その他、持ち込み不可）の成績で評価を出す。	

03 年度以降	外国史概説Ⅱ	担当者	久慈 栄志
講義目的、講義概要		授業計画	
西欧における「近代化」過程の歴史を社会・文化・経済・宗教等の側面から考察し、その特質と功罪について検証する。また、「和魂洋才」の言葉が示すとおり明治維新以後、わが国が西欧から受容し「血や肉」とした文物は計り知れない。今日の日本社会においても大きな影響を与えている西欧の「伝統」とは何なのか？という点にもふれてみたい。 16世紀頃から20世紀までの歴史的事象の中から、ヨーロッパ圏内はもとより、周辺世界に対してもインパクトが大であった事項を取り上げる。前半は宗教的側面から、後半は経済的側面を中心にアプローチしたい。 テキストは特に指定しないが、下に掲げた参考文献中、2冊程度は目を通してほしい。 ・ 大下尚一／西川正雄／服部春彦／望田幸男編『西洋の歴史（近現代編）』【増補版】（ミネルヴァ書房） ・ 井上幸治編『西洋史入門』【増補版】（有斐閣双書） ・ 佐藤真一『ヨーロッパ史学史』（知泉書館） ・ 中井義明／佐藤専次 他著『教養のための西洋史入門』（ミネルヴァ書房）		1. オリエンテーション 2. 歴史叙述・歴史理論の変遷（古代～中世） 3. 同上 4. 歴史叙述・歴史理論の変遷（近代以降） 5. 同上 6. 「近代」の概念について 7. 宗教改革～その背景と「近代」の扉を開かせたインパクトについて 8. 同上 9. 市民革命～英仏両革命の共通性と異質性を分析し、両国の国民性を考える 10. 同上 11. 産業革命～拝金主義と社会の諸矛盾、社会主義の必然性について 12. 同上 13. 「近代化」とは何だったのか～その変質を考える 14. 帝国主義と世界再分割～資本主義の矛盾と限界、経済活動と戦争とがいかに密接であるかを考える 15. 同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記の参考文献を参照のこと。 また、高校世界史教科書及び、図録なども座右に置くことが望ましい。		試験を実施する。（記述形式、ノート持込不可） 出席状況も加味。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	地理学概説Ⅰ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
自然環境と人間のかかわりについて、地理学的観点から具体的な事例をもとに考察する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な自然環境の見方を身につける。 本講義では、身近な地域の環境を自然地理学の観点から分析する基礎として、まず地形図の利用法を扱う。その後、関東地方の自然地理的な特色とその基盤の上に立った人々の生活について説明する。 ＊講義科目ではあるが、実習等を行う予定である。色鉛筆、定規等指示された用具を準備すること。 ＊中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定教科書を購入し、自習しておくこと。（授業時には必要に応じて持参する。） 『詳解地理 B』 二宮書店 『コンパクト地図帳』 二宮書店		1.オリエンテーション（講義の概要） 2.地形図利用の基礎(1) 地形図の基礎知識 3.地形図利用の基礎(2) 距離と面積、等高線と地形 4.地形図利用の基礎(3) 土地利用を読む 5.東京・関東の地形的特色(1)山の手と下町 6.東京・関東の地形的特色(2)台地 7.東京・関東の地形的特色(3)荒川と利根川の低地 8.東京・関東の地形的特色(4)東京湾 9.東京・関東の地形的特色(5)関東山地 10.東京・関東の気候的特色(1)気候システムと気候のスケール、気候と景観、観測とデータ 11.東京・関東の気候的特色(2)山地の気候・平野の気候 12.東京・関東の気候的特色(3)海岸の気候・内陸の気候 13.東京・関東の気候的特色(4)都市気候と気候の変化 14.東京・関東の自然災害と防災(1) 15.東京・関東の自然災害と防災(2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート（小課題）、出席状況	

03 年度以降	地理学概説Ⅱ	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
地理学の基本的概念を理解し、これらの概念を用いて、どのような研究が行われているかを展望する。あわせて、中等教育諸学校で、地理の授業を行う際に必要とされる基本的な人文地理学の見方・考え方を身につける。 本講義では、地理的知識の拡大と地理学の歴史を述べた後、地理学の主要概念のうち「環境」「景観」「場所と立地」「伝播」について解説する。さらに、人文地理学のいくつかのテーマを取り上げ理解の深化を図る。 ＊中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定教科書を購入し、自習しておくこと。（授業時には必要に応じて持参する） 『詳解地理 B』 二宮書店 『コンパクト地図帳』 二宮書店		1.地理学の歴史（１） 2.地理学の歴史（２） 3.地理学の歴史（３） 4.地理学の主要概念（１）環境 5.地理学の主要概念（２）景観 6.地理学の主要概念（３）場所と立地（１） 7.地理学の主要概念（４）場所と立地（２） 8.地理学の主要概念（５）場所と立地（３） 9.地理学の主要概念（６）地域と空間 10.地理学の主要概念（７）伝播 11.地理学のトピックス（１）メンタルマップ 12.地理学のトピックス（２）時間地理学 13.地理学のトピックス（３）地理情報システム（１） 14.地理学のトピックス（４）地理情報システム（２） 15.地理学のトピックス（５）教育と地理	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート（小課題）、出席状況	

03 年度以降	地誌学概説 I	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。地誌学における主要概念である「地域」と地域分析法を理解した上で、日本を事例地域として地誌学的見方を身につけることを目的とする。 本講義では、地誌学の方法、「地域」概念について講義した後、地域を扱う上で必要な文献や統計の収集法や利用法、統計分析など地域分析の手法を習得する。その上で、日本地誌を扱う。 ＊講義科目であるが、実習を含むので、色鉛筆、電卓等授業中に指示された用具は各自用意すること。 ＊地図帳を持参すること。 ＊中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定済教科書を購入し、自習しておくこと。（授業時には必要に応じて持参する） 『詳解地理 B』 二宮書店 『コンパクト地図帳』 二宮書店		1. オリエンテーションー地誌学とは 2. 「地域」の概念 3. 地域分析の基礎（1）文献・資料・統計の所在と検索 4. 地域分析の基礎（2）統計の利用 5. 地域分析の基礎（3）統計の地図表現 6. 地域分析の基礎（4）空間分析 7. 地域分析の基礎（5）地域構造 8. 日本地誌（1）自然環境と風土 9. 日本地誌（2）歴史的背景と地域文化 10. 日本地誌（3）人口分布と人口構造 11. 日本地誌（4）産業と地域変容（1） 12. 日本地誌（5）産業と地域変容（2） 13. 日本地誌（6）交通・通信と地域 14. 日本地誌（7）都市の変容 15. 日本地誌（8）地域構造と地域区分	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート（小課題）、出席状況	

03 年度以降	地誌学概説 II	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
特定の地域を対象とする地誌学は、地理学の中で重要な位置を占めている。本講義では、世界の地域構造を概観したのち、アメリカを事例地域としてとりあげ、地誌的見方を身につけることを目的とする。 ＊地図帳を持参すること。 ＊中学校「社会」、高等学校「地理歴史」教員免許取得のための講義である。高等学校等において「地理」を履修していないものは、次の文部科学省検定済教科書を購入し、自習しておくこと。（授業時には必要に応じて持参する） 『詳解地理 B』 二宮書店 『コンパクト地図帳』 二宮書店		1. 世界認識の基礎 2. 世界の地域構造とその変容（1）自然的基盤 3. 世界の地域構造とその変容（2）文化圏 4. 世界の地域構造とその変容（3）国家と経済 5. アメリカ地誌（1）アメリカとは 6. アメリカ地誌（2）自然景観（1） 7. アメリカ地誌（3）自然景観（2） 8. アメリカ地誌（3）歴史的背景 9. アメリカ地誌（4）人口と社会 10. アメリカ地誌（5）産業と経済（1） 11. アメリカ地誌（6）産業と経済（2） 12. アメリカ地誌（7）産業と経済（3） 13. アメリカ地誌（8）産業と経済（4） 14. アメリカ地誌（9）都市と生活 15. アメリカ地誌（10）アメリカと世界	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは指定しない。参考文献等は講義中に示される。		試験とレポート（小課題）、出席状況	

03 年度以降	法律学概説 I	担当者	小川 佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
法学及び憲法の基礎について学ぶ。 講義は、法、法律、裁判とは何か、という基本から行い、具体的な裁判制度、各種法律についても触れる。受講者には、憲法、法律、権利、契約、裁判といった法律的概念について具体的なイメージを掴んでもらいたい。また、タイムリーな話題（裁判、法制度等）についても、できるだけ説明を加えたい。		1 法とは何か(1) 2 法とは何か(2) 3 法と裁判 4 歴史と憲法 (1) 5 歴史と憲法 (2) 6 憲法の原理 7 憲法：人権 (1) 8 憲法：人権 (2) 9 憲法：人権 (3) 10 憲法：統治機構 (1) 11 憲法：統治機構 (2) 12 憲法：統治機構 (3) 13 憲法上の諸問題と裁判例(1) 14 憲法上の諸問題と裁判例(2) 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
最新版六法。ほかは特に指定しない。		原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合はその他の方法で評価を行うことがある。	

03 年度以降	法律学概説 II	担当者	小川 佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
前期に続き、法について学ぶ。後期は、民事や刑事の具体的な事件を題材として、法と裁判について学習する予定である。		1 法とは何か 2 歴史と憲法 3 日本における憲法(1) 大日本帝国憲法 4 日本における憲法(2) 日本国憲法 5 憲法問題と戦後(1) 6 憲法問題と戦後(2) 7 刑事事件 (1) 8 刑事事件 (2) 9 刑事事件 (3) 10 民事事件 (1) 11 民事事件 (2) 12 民事事件 (3) 13 憲法訴訟 (1) 14 憲法訴訟 (2) 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		原則として期末試験で評価する。ただし特段の事情のある場合はその他の方法で評価を行うことがある。	

03 年度以降	政治学概説 I	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
政治学は古来、教養の学として長い伝統を築いてきました。近代以前においては統治者の教養の学あるいは統治の技術でした。政治学が役人や政治家になるための学問であるという見解が生まれたのは、そのような伝統に起因するわけです。しかし統治者＝被治者であるデモクラシーの現代においては、政治学はまず第一にすべての市民の教養の学でなければなりません。本講義は、このような観点に立って、市民のための政治学を目指します。 「政治学概説I」では、(1)国家と権力、国民国家の原理、国際関係における安全保障など統治の正統性に関する諸問題、さらに(2)議会、執政部、官僚制、国際制度など統治構造に関する問題を扱います。		1. デモクラシーの政治 本人と代理人 2 政治と経済 3 自由と自由主義 4 福祉国家 5 国家と権力 6 市民社会 7 ナショナリズムとコスモポリタニズム 8 国内社会と国際関係 9 国際関係における安全保障 10 国際関係における富の配分 11 議会 12 執政部 13 官僚制 14 中央地方関係 15 国際制度	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書 久米・川出・古城・田中・真淵『政治学』第二版、有斐閣、2011.		出席と試験による	

03 年度以降	政治学概説 II	担当者	杉田 孝夫
講義目的、講義概要		授業計画	
政治学は古来、教養の学として長い伝統を築いてきました。近代以前においては統治者の教養の学あるいは統治の技術でした。政治学が役人や政治家になるための学問であるという見解が生まれたのは、そのような伝統に起因するわけです。しかし統治者＝被治者であるデモクラシーの現代においては、政治学はまず第一にすべての市民の教養の学でなければなりません。本講義は、このような観点に立って、市民のための政治学を目指します。 「政治学概説 II」では、(1)政策過程、対外政策の形成など統治過程の問題、(2) 世論とメディア、選挙、利益団体、政党などについて検討します。		1 政策過程 2 対外政策の形成 3 制度と政策 4 古代デモクラシー 5 近代代デモクラシー 6 リベラルデモクラシー 7 投票行動 8 政治の心理 9 世論とメディア 10 選挙 11 政治参加 12 利益団体の政治 13 政党の役割と機能 14 政党システム 15 総括	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：久米・川出・古城・田中・真淵『政治学』第二版、有斐閣、2011.		出席と試験による	

03 年度以降	社会学概説 I	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。とくに本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で考えてみたい。 本講義のねらいは、「社会学」という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会的視点、社会的な考察とは、どういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとおして社会における自己と他者についての関係を考えることである。		1. イントロダクション——社会的な視座とは 2. 社会学の歴史（1）——A. コント、H. スペンサー 3. 社会学の歴史（2）——E. デュルケム 4. 社会学の歴史（3）——M. ウェーバー 5. 社会の類型（1）——コミュニティとアソシエーション 6. 社会の類型（2）——ゲマインシャフトとゼーゼルシャフト 7. 社会の類型（3）——第一次集団 8. Identity 形成と社会（1）——鏡に映った自己 9. Identity 形成と社会（2）——重要な他者 10. Identity 形成と社会（3）——マージナル・マン 11. Identity 形成と社会（4）—— 未定 12. 補完的アイデンティティについて（1） 13. 補完的アイデンティティについて（2） 14. 補完的アイデンティティについて（3） 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
G. ジンメル『社会学の根本問題（個人と社会）』世界思想社 E. デュルケム『自殺論』中央公論社 M. ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 G.H. ミード『社会的自我』恒星社厚生閣		出席とレポート（履修者多数の場合、期末試験を行う）	

03 年度以降	社会学概説 II	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。 本講義のねらいは、異なった社会的・文化的背景をもつひとびとが、ともに生き、ともに暮らす社会において、なにが問題とみなされるのか、なにが必要とされているのかを社会的視点から考え、「都市」「移民」「地域」に注目しつつ、現代のグローバル化・国際化のもとで日本社会が直面する課題とはなにか、そこからどのようなネットワークがあらたに生まれるかについて学ぶことである。		1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」——E. フロム 3. 同調様式の 3 類型——D. リースマン 4. 都市化と移民——W.I. トマスと F.W. ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E. パーゼス 6. シカゴ学派と都市問題——R. パーク 7. 「社会」問題と社会的視座（1） 8. 「社会」問題と社会的視座（2） 9. 「社会」問題と社会的視座（3） 10. 予言の自己成就——R.K. マートン 11. 誇示的消費——T. ヴェブレン 12. 認知的不協和の理論——L. フェスティンガー 13. 文化的再生産——P. ブルデュー 14. コンフルエント・ラブ——A. ギデンズ 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
E. フロム『自由からの逃走』東京創元社 D. リースマン『孤独な群衆』みすず書房 W.I. トマス、F. ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房 A. ギデンズ『親密性の変容』而立書房 ほか		出席とレポート（履修者多数の場合、期末試験を行う）	

03 年度以降	哲学概説 I	担当者	河 口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
昨今、哲学の復権が唱えられ自分探しの一環として哲学が一種の流行となっているが、それらをも包摂し相対化する視点こそが、今求められている。一般教養としての哲学史的知識も教職に必要であるが、教師として以前に、一人の人間として真摯に生きるために「哲学」が持つ意義を考えてもらいたい。 西欧思想を歴史的にもしくは主題別に辿ることが、本講義の概要であるがそこには二つの偏りが存在していることを意識しつつ論じて行きたい。 西欧哲学としての偏りと明治以降の輸入哲学としての偏りである。哲学をギリシア起源の「学」としてのみ捉えるのではなく、幅広く「思想」として捉え、政治・社会・宗教・歴史・科学等への影響をも視野に入れて論じたい。 個々の思想家の経歴や思想の細部の紹介は、テキストに譲り、彼らがその思想を形成した動機や課題、歴史的 position 付けなどを重視して論じる。 春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。		1. 哲学とは何か（1） 2. ソクラテス以前 3. 〃 4. ソクラテス 5. プラトン 6. 〃 7. アリストテレス 8. 〃 9. スコラ哲学 10. 〃 11. 科学革命 12. 〃 13. 合理論 14. 〃 15. 〃	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント資料配布（実費 300 円） 文献は随時紹介する。		レポート、出席点を試験の点に加算 （出席は 2 / 3 以上必要）	

03 年度以降	哲学概説 II	担当者	河 口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期のみを受講することは、出来るだけ避けてください。 （春学期に同じ）		1. 経験論 2. 〃 3. 社会契約説 4. カント 5. 〃 6. ドイツ観念論 7. 〃 8. キルケゴール・マルクス・ニーチェ 9. 〃 10. フッサール・ハイデッガー・ヤスパーズ 11. 〃 12. ウィトゲンシュタイン 13. 構造主義 14. 言語哲学 15. 哲学とは何か（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント資料配布（実費 300 円） 文献は随時紹介する。		レポート、出席点を試験の点に加算 （出席は 2 / 3 以上必要）	

03 年度以降	倫理学概説Ⅰ	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもいい。 【講義概要】 哲学史の入門書をもとに授業を進行していく。 古代ギリシアから、近世のデカルト・パスカルなどを経て、近代のニーチェまでをこの学期で見ていく。 教科書はかなりコンパクトに各哲学者の思想をまとめたものだが、その圧縮された内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。 【受講生への要望】 他人の言葉を読む・聴くときには、自分の心のなかを静かに沈黙させて、他人の言葉をできる限りていねいに受けとれるようにしてみよう。		1. 導入 (プレゼン担当者の募集・日程調整を含む) 2. プラトン (1)「ソクラテスの死から」 3. プラトン (2) 4. アリストテレス「人間は知ることを欲する」 5. エピクロス派、ストア派 6. デカルト (1)「私は思考する、ゆえに私は在る」 7. デカルト (2) 8. デカルト (3) 9. パスカル「考える葦」 10. ルソー (1)「人づきあいが人間を不幸にする」 11. ルソー (2) 12. ニーチェ (1)「永遠回帰に耐えられるか」 13. ニーチェ (2) 14. ニーチェ (3) 15. まとめ	
テキスト (※各自入手しておくこと)		評価方法	
ドミニク・フォルシェー 『西洋哲学史 パルメニデスからレヴィナスまで』 (白水社・文庫クセジュ)		学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書内容への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。	

03 年度以降	倫理学概説Ⅱ	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
【講義目標】 西洋現代哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもいい。 【講義概要】 この学期では現代の哲学的諸問題について扱っていく。もちろん古代～近代の哲学者たちの考察が参考にされる。 現代は画像・映像といったイメージが飛びかい、そうしたイメージによる記録／記憶が人々の心を苦しめる時代でもある。これを記憶と歴史の問題として考察していく。 教科書にまとめられている内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。 【受講生への要望】 他人の言葉を読む・聴くときには、自分の心のなかを静かに沈黙させて、他人の言葉をできる限りていねいに受けとれるようにしてみよう。		1. 導入 (プレゼン担当者の募集・日程調整を含む) 2. プラトンの記憶論「記憶は足跡か、絵画か」 3. アリストテレスの記憶論 4. ベルクソンの記憶論「イマージュ - 想い出」 5. サルトルの記憶論「幻覚」 6. フッサールの記憶論「想像と記憶を区別する？」 7. 個人的記憶と集合的記憶 8. 〈心性史〉の歴史記述 9. 〈表象史〉の歴史記述 (1) 10. 〈表象史〉の歴史記述 (2) 11. 王の肖像——イマージュの魅惑 12. ナチスのユダヤ人虐殺をめぐる (1) 13. ナチスのユダヤ人虐殺をめぐる (2) 14. 「困難な赦し」 15. まとめ	
テキスト (※各自入手しておくこと)		評価方法	
川口茂雄『表象とアルシーヴの解釈学 —— リクール「記憶、歴史、忘却」の問題系』(京都大学学術出版会)		学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書内容への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約 20 点を加点する予定。	

03 年度以降	宗教学概説 I	担当者	河 口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
戦後教育が宗教について意識的に或いは無意識的に避け続けてきた為、現代の日本人は宗教に関して一種の「真空状態」に置かれており、そこから様々な問題が昨今生じている。 そこで本講義は、宗教学の学的体系性よりも、むしろ諸宗教の歴史と現在についての一般的概括的知識を得られるようにすることを重点とする。 更に教職科目であることにも鑑み、宗教教育のあり方についても論じたい。 前期は洋の東西、今昔を問わず世界史上の諸宗教の歴史と現在について説明し、宗教の果たして来た役割・問題点について考えてもらう。 春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。		1. 宗教とは何か (1) 2. 神話と宗教 3. ユダヤ教 (1) 4. ユダヤ教 (2) 5. キリスト教 (1) 6. キリスト教 (2) 7. キリスト教 (3) 8. キリスト教 (4) 9. イスラム教 (1) 10. イスラム教 (2) 11. イスラム教 (3) 12. イスラム教 (4) 13. ヒンドゥ教 (1) 14. ヒンドゥ教 (2) 15. ヒンドゥ教 (3)	
テキスト、参考文献		評価方法	
『世界が分かる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 筑摩文庫 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は 2 / 3 以上必要)	

03 年度以降	宗教学概説 II	担当者	河 口 伸
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的は春学期に同じ。春学期の続きの後に秋学期は、日本の宗教の歴史と、日本人の宗教的心性の形成にまず触れ、その後に宗教的諸概念についての理解を深め、日本や欧米の先進国において宗教集団が現在持っている意義や問題点を論じた上で、宗教教育の是非・可能性を論じる。 秋学期のみを受講することは、出来るだけ避けてください。		1. 仏教 (1) 2. 仏教 (2) 3. 仏教 (3) 4. 仏教 (4) 5. 儒教 (1) 6. 儒教 (2) 7. 道教 8. 日本の宗教の歴史と現在 (1) 9. 日本の宗教の歴史と現在 (2) 10. 日本の宗教の歴史と現在 (3) 11. 宗教上の諸概念(儀礼・戒律・修行など) 12. 宗教団体の諸問題 (1) 13. 宗教団体の諸問題 (2) 14. 学校教育と宗教 15. 宗教とは何か (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
『世界が分かる宗教社会学入門』橋爪大三郎著 筑摩文庫 文献は随時紹介する		レポート、出席点を試験の点に加算 (出席は 2 / 3 以上必要)	

03 年度以降	心理学概説 I	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと心の健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。 本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。		以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。 1. はじめに：科学としての心理学 2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生 3. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学 4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学 5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論 6. 性格とは？：自己の性格理解 7. 性格をとらえる枠組み：性格理論 8. 性格の形成：遺伝的要因と双生児研究 9. 性格の形成：環境的要因 10. ストレス①：ストレスと性格 11. ストレス②：ストレス・コーピング 12. ストレス③：ストレスの生理心理学 13. 現代社会とストレス 14. 現代社会とこころの病 15. 生きがいとこころの健康	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。		授業における小レポートと試験により総合的に評価する。	

03 年度以降	心理学概説 II	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらう。これらの学習を通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。また、心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果をレポートにまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともありうる。 ※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000 円程度）を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。		授業計画は以下のとおりである。 1. 心理検査とは？ 2. 心理検査の種類と理論 3. 質問紙による性格検査① 4. 質問紙による性格検査② 5. ストレス・コーピング 6. 絵からみる家族像 7. 知能検査 8. 感情指数 9. 職業興味 10. グループ・ワークによる自己理解① 11. グループ・ワークによる自己理解② 12. グループ・ワークによる自己理解③ 13. グループ・ワークによる自己理解④ 14. グループ・ワークによる自己理解⑤ 15. 心理検査による自己理解のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
各種の心理検査用紙はこちらで用意する。ただし、履修者には、これら心理検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう。申請書と引き換えに検査用紙を配布する予定である。		各回の授業レポートと最終のレポートにより総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	生涯学習概論	担当者	阪本 陽子
講義目的、講義概要		授業計画	
私たちはその成長・発達に応じて、人間として学ぶべき課題を持っています。また、少子高齢化、都市化、国際化など、社会の様々な変化に対応した学習が絶えず求められています。生涯学習は、私たちの教育や学習に対する考え方を大きく転換させ、現代社会のなかで重要な意味を持っています。 本講では、生涯学習に関する基本的な考え方を学ぶとともに、生涯学習社会における学校教育、社会教育、家庭教育の在り方や、現代社会と生涯学習の関わりについて考えます。 受講者数にもよりますが、講義形式だけでなく、受講生からの発言やさまざまな学習方法を体験する演習を取り込みながら進めていきます。		1. ガイダンス 2. 人間の発達と学習 3. 社会の変化と学習 4. 生涯学習の理念とその背景 5. 生涯学習の学習論 6. 生涯学習と学校教育 7. 生涯学習と社会教育 8. 生涯学習と家庭教育 9. 学習形態・技法と学習支援者の役割 10. さまざまな学習方法を体験する①（演習） 11. さまざまな学習方法を体験する②（演習） 12. さまざまな学習方法を体験する③（演習） 13. 生涯学習施設の機能と役割 14. 生涯学習を支援する行政の現状と課題 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはありません。レジュメ等、資料を配布して授業を進めます。ガイダンスで参考文献を紹介する他、授業中に参考文献を紹介します。		出席（7割以上）、講義中の課題、学期末のレポートなどを総合的に評価します。	

03 年度以降	図書館概論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の概要と目的： 図書館の機能の基本である資料について学習する。資料の種別、資料選択の考え方、資料構築方針や資料保存・更新などについての実務を学ぶ。 書店やマスコミ、インターネットという多様な情報提供源とは異なる、民主主義社会の基礎となる情報提供源である図書館の役割と意義、使命について考える。検閲や焚書といった印刷メディアから視聴覚メディアや電子メディアなどの情報提供に対する批判や圧力などについて考える。図書館や図書館員がどのような役割をはたすべきなのかを考える。 到達目標： 図書館全体にわたっての基本的知識を理解していること。また、図書館の現状を把握し、課題について自分の意見や考えを述べるができること。		1. はじめに 2. 現代社会と図書館 3. 図書館の法的基盤 4. 図書館をめぐる財政政策 5. 出版文化と図書館、著作権 6. 図書館における知的自由 7. 公共図書館の意義と活動使命 8. 公共図書館の役割と活動 9. 地域社会と図書館 10. 学校図書館の役割と活動 11. 大学図書館 12. 専門図書館 13. 国立国会図書館 14. 図書館の歴史 15. 海外の図書館	
テキスト、参考文献		評価方法	
塩見昇編『図書館概論 新訂版』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ－1）日本図書館協会発行、2008 年		出席点＋授業参加、小テスト、期末試験	

03 年度以降	図書館経営論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
公共図書館を中心としての図書館運営・経営についての概論。事例研究をもとに議論していく。近年の図書館をめぐる法的基盤や財政施策、地方自治体の社会教育政策をおさながら、資料管理・施設設備管理、人的資源管理をめぐる課題を考える。 多くの図書館では、人材派遣や契約職員、アルバイト、ボランティアなどの人々が働いている。正職員であったとしても、必ずしも司書有資格者とは限らない。したがって、司書有資格者の主な仕事は資料管理運営から財政管理や人事管理、スタッフ教育、さらに自己継続教育といった内容にシフトしており、そのための戦略的計画や積極的な図書館活動のためのプロモーション、資金獲得のための政治的手腕が求められている。そのため、企業の経営管理運営理論を参考にして、実際の公共図書館の例をケース・スタディとして学習しながら、現状の把握と問題点、さらにどのような戦略的活動が求められているのかを学ぶ。 事例研究ではグループでの議論が中心となり、また積極的な発言がもとめられるため、 <u>授業参加は必須</u> となる。		1. 情報社会と図書館の情報戦略 2. 企業の経営理論と図書館経営 3. 公的セクターの経営理論と図書館経営 4. 図書館法政策 5. 図書館経営の実態 統計からみた図書館経営 6. 地方自治体の図書館政策 都道府県の場合 7. 地方自治体の図書館政策 市町村の場合 8. 財政と図書館経営 9. 建築、施設・設備－PFI や委託の問題－ 10. 人事管理－専門職の役割と委託などの問題－ 11. 資料管理 12. 事業計画策定 13. 事例研究(1) 14. 事例研究(2) 15. 事例研究(3)	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料を配布するほか、参考文献を提示する。		出席、授業参加度、グループでの事例研究の討議、数度の課題・報告で総合的に評価する。	

03 年度以降	図書館サービス論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
公共公立図書館を中心として、その図書館活動の実務を理解し、情報資料・人的資源の効率よい図書館活動とは何か、図書館活動に関わる組織・管理・運営、各種計画などについて理解する。また、その活動評価についても考えていく。特に、利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに各種サービスの特質を明らかにする。		- はじめに。 - 図書館の法的基盤と社会的意義 - 図書館サービスの意義 - 来館者へのサービスー貸出、利用援助などー - 資料提供の基礎ー場と図書館ー - 資料提供の展開ー貸出サービスー - 資料提供の展開ープロモーション活動 「いつでも、どこでも、誰にでも」ー - 情報提供ー利用者のニーズへの対応などー - 集会・文化活動、行事など - 利用対象者別サービス（１） - 利用対象者別サービス（２） - 図書館マーケティング活動ー利用者の交流の場としての図書館ー - 図書館経営ー図書館サービスとマネジメントー - 図書館サービスと図書館員・司書ー人的資源と図書館サービスー - まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
『図書館サービス論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡー３）日本図書館協会、2010 年		出席（授業参加）と数度の試験（約 80％）で評価。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	情報サービス論 a	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】本講義での情報サービスとは、図書館の情報提供機能を具体化するサービス全般のことをいうが、これにはレファレンスサービスやカレントアウェアネスサービス、さらには CD-ROM やオンラインの検索サービス等、さまざまなサービスが含まれる。本講義ではこの情報サービスの総合的な理解を目指す。 【概要】図書館の情報サービスについての基本的な事項を解説する。より具体的には授業計画を参照のこと。		1 オリエンテーション：受講者の確認。授業方法等について説明。 2 情報サービスの概要と実際（ビデオ鑑賞等） 3 レファレンスサービス 4 利用案内 5 レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス 6 検索サービス 7 前半部分のまとめ。質問受付。 8 獨協大学図書館の情報サービス 9 発展的情報サービス 10 情報サービスで用いる情報源の類別 11 レファレンスコレクションの構築・評価 12 情報サービスにおけるコミュニケーション 13 レファレンスサービスの記録と事例 14 最新の情報サービス 15 授業全体のまとめ。質問受付。	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

03 年度以降	情報サービス論 b	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
図書館活動の基本は資料提供である。利用者の求めに応じて、多様な形態の資料を提供し、情報を提供する。このサービス活動のひとつがレファレンス・サービスである。利用対象者をとわず、あらゆる質問や調査、資料・情報探索への迅速かつ適確な対応を可能とするのが、専門職たる司書の使命である。この科目では司書になるためのレファレンス・サービスの実習である。幅広い教養と専門知識・探索技術に裏付けられたサービス活動である。 最近では地域産業活性化のためにビジネス情報提供に特化したレファレンス・サービスや、陪審員制度をきっかけとしての法律情報提供、高齢化社会にともなう健康情報提供、調べ学習や総合的な学習といったこどもたちの自律的学習活動のための支援といったテーマ別のレファレンスサービスも盛んとなっている。 毎回、図書館の参考図書を利用したの情報探索演習をおこなう。授業参加は必須である。毎週、課題を提出してもらう。 最終目標は何を聞かれても調べて情報を提供できるプロ＝「やおよろず質問受付」になることである。		1. はじめに。情報サービス技術の基礎（復習） 2. 質問の分析技術と情報探索技術 3. 「パスファインダー」作成 4. 情報源の探索 OPAC 利用の実際 5. 新聞・雑誌記事の探索 6. 出版情報・図書所在情報の探索 7. 統計資料の探索 8. 歴史・地理分野情報の探索 9. ビジネス分野情報の探索 10. 法律分野情報の探索 11. 健康情報の探索 12. レファレンス・インタビュー技術の基本 13. レファレンス・インタビューの実際(1) 14. レファレンス・インタビューの実際(2) 15. レファレンス・インタビューの実際(3)	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布資料		出席とほぼ毎回の課題、最後のレファレンスインタビューによる課題で評価する。	

03 年度以降	情報検索演習	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に、コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を、解説および実習を通して体得する。 【概要】本講義ではまず、情報検索に関する基礎的な概念について解説する。そしてその知識を踏まえた上で、実際の情報検索技術に慣れ、習熟するために、ウェブ上の検索エンジンやCD-ROMデータベース、商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能な限り、受講者が今後の調査／研究活動で利用できるような情報源を紹介する。		1 オリエンテーション；情報検索の概要 2 情報検索の種類と歴史 3 データベース 4 情報検索できないときの対処法 5 索引語 6 シソーラス 7 前半部分のまとめ；質問受付 8 獨協大学図書館で利用できるデータベース (1) 9 情報検索関連作業のプロセス：索引作成 10 情報検索関連作業のプロセス：業務としての検索 11 検索式 (1) 12 検索式 (2) 13 検索結果の評価 14 獨協大学図書館で利用できるデータベース (2) 15 授業のまとめ；質問受付	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

03 年度以降	情報検索演習	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
情報検索の基本的な理論を学び、実習する。 まず、情報検索の歴史、情報の入手方法、主題分析、検索キーの作成、データベースといった諸項目と、情報要求、検索式、検索結果の評価といった諸項目を順に解説する。 検索式の解説では、ブール演算子とトランケーションを用いた情報検索の表現方法を、実際の検索および結果の評価では、再現率と適合率等について学ぶ。 実践的な情報検索能力を養うために、オンライン検索ではインターネット上の各種情報検索システムをできるだけ活用する。		1 ガイダンス： 情報検索とは 2 情報検索 (1)：情報検索システム 3 情報検索 (2)：情報検索の理論：ブール演算子 4 情報検索 (3)：情報検索の理論：トランケーション 5 情報検索 (4)：情報検索結果の評価 6 データベース (1)：データベースと情報検索 7 データベース (2)：データベースシステムと諸項目 8 インターネットの情報検索 (1)：検索エンジン 9 インターネットの情報検索 (2)：Web 情報の探し方 10 インターネットの情報検索 (3)：リンク集の作り方 11 検索実習 (1)：図書の検索 12 検索実習 (2)：雑誌・新聞記事の検索 13 検索実習 (3)：人物・企業・団体情報の検索 14 検索実習 (4)：法律・統計・特許情報 15 情報検索まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
原田、江草、小山、沢井共著『情報検索演習』新・図書館学シリーズ 6、樹村房、2007（3 訂）		2～3 回程度のレポートおよび出席、期末試験を総合的に評価する。	

03 年度以降	図書館資料論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
図書館の機能の基本である資料について学習する。資料の種別、資料選択の考え方、資料構築方針や資料保存・更新などについての実務を学ぶ。 書店やマスコミ、インターネットという多様な情報提供源とは異なる、民主主義社会の基礎となる情報提供源である図書館の役割と意義、使命について考える。検閲や焚書といった印刷メディアから視聴覚メディアや電子メディアなどの情報提供に対する批判や圧力などについて考える。図書館や図書館員がどのような役割をはたすべきなのかを考える。		1. 図書館資料の定義 2. 図書館における知的自由、検閲・焚書 3. 形態別図書館資料種別と構築（選択など） (1) 印刷資料メディア (2) 視聴覚資料メディア (3) 触覚資料メディア、立体資料メディア (4) 電子資料メディア（電子書籍など） (5) 特殊資料メディア・専門資料メディア 4. 内容別図書館資料の選択 (1) 人文科学分野 (2) 社会科学分野 (3) 自然科学分野 5. 出版・流通・販売 6. 図書館資料コレクション形成方針と実務 7. 資料の更新・保存・廃棄、メディア転換など。 8. 図書館資料をめぐる課題	
テキスト、参考文献		評価方法	
馬場俊明編 『図書館資料論』（J L A図書館情報学テキストシリーズⅡ 7）日本図書館協会、2008年		出席、試験で評価。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	専門資料論	担当者	小黒 浩司
講義目的、講義概要		授業計画	
○講義の目的 図書館資料論での学習を基礎に、各種専門分野の情報資源の特性などについて学習する。 ○講義の概要 人文科学、社会科学、自然科学・技術の各分野における知識の構造と資料との関係についての理解を図るために、それぞれの分野の情報資源の特性と主要な情報資源について解説する。		1. 授業のガイダンス 2. 地図資料 3. 統計資料 4. 特許資料 5. 音楽資料 6. 法律資料 7. 医療・健康情報 8. 消費者情報 9. 環境情報 10. マイクロ資料 11. 電子資料の特性 12. 電子ジャーナル 13. 歴史的音源 14. ウェブアーカイビング 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
○教科書： 指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。		○評価方法： 期末試験の結果によって評価するが、平常授業における実績も評価対象とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	資料組織概説	担当者	小黒 浩司
講義目的、講義概要		授業計画	
○講義の目的 図書・電子資料など多様な図書館情報資源の組織化の理論と技術について概説し、情報資源組織演習での学習に備える。 ○講義の概要 書誌コントロール、書誌記述法、分類法、主題分析などについての基礎知識を修得する。ネットワーク情報資源など多様な情報資源の組織化、書誌データの活用法を解説する。		1. 授業の進め方 2. 情報資源組織化の意義 3. 書誌コントロール 4. 標準化 5. 記述目録法 6. 書誌データの活用・提供 7. 書誌ユーティリティ 8. 目録法の種類 9. 主な目録法 10. 分類法の種類 11. 主な分類法 12. 図書記号 13. 主題分析 14. 主題索引 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
○教科書：『資料組織法. 第 6 版』木原通夫・志保田務共著 第一法規 2007 ○参考書：『日本十進分類法. 新訂 9 版』日本図書館協会編 日本図書館協会 1995 『基本件名標目表. 第 4 版』日本図書館協会編 日本図書館協会 1999 『日本目録規則. 1987 年版改訂 3 版』日本図書館協会編 日本図書館協会 2006		○評価方法： 期末試験の結果によって評価するが、平常授業における実績も評価対象とする。	

03 年度以降	資料組織演習	担当者	小黒 浩司
講義目的、講義概要		授業計画	
○講義の目的 情報資源の組織化に関する技術について、演習形式で学習する。多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。 ○講義の概要 書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用などの演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。		1. 授業のガイダンス 2. 日本目録規則 1987 年版改訂 3 版（NCR19873R）の概要 3. NCR19873R 記述総則・通則 4. NCR19873R タイトルと責任表示に関する事項 5. NCR19873R 版に関する事項・出版、頒布等に関する事項 6. NCR19873R 形態に関する事項・シリーズに関する事項 7. NCR19873R 注記に関する事項・標目 8. 日本十進分類法新訂 9 版（NDC9）の概要 9. NDC9 分類規程・主題分析 10. NDC9 分類記号の付与 人文科学 11. NDC9 分類記号の付与 社会科学 12. NDC9 分類記号の付与 自然科学 13. 基本件名標目表第 4 版（BSH4）の概要 14. BSH4 件名標目の付与 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
○教科書：『資料組織法. 第 6 版』木原通夫・志保田務共著 第一法規 2007 ○参考書：『日本十進分類法. 新訂 9 版』日本図書館協会編 日本図書館協会 1995 『基本件名標目表. 第 4 版』日本図書館協会編 日本図書館協会 1999 『日本目録規則. 1987 年版改訂 3 版』日本図書館協会編 日本図書館協会 2006		○評価方法： 演習テストの結果によって評価するが、平常授業における実績も評価対象とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	児童サービス論	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
子どもやヤングアダルトと称せられる 10 代の図書館利用者(潜在的利用者)に対する戦略的で効果をあげうるべき図書館プログラムを企画・実施し、評価に耐えうる内容を考えられる専門職としての児童・YA 担当司書を養成することを目的とする。 幅広く多くの児童書やYA向け資料を読んでもらうことになる。また、発達心理や読書心理、児童文化や YA 文化、社会問題などについての研究書などについても読んでもらうことになる。 (授業開始までに多くの児童書や YA 向け資料等を読んでおいてもらいたい。読むべきリストは前期終了時頃に配布するので、受講予定者はリストを手して読んでおいてほしい。)		1. はじめに。図書館の意義と使命。 2. 民主主義社会・地域社会と図書館の役割。図書館サービスとは何か。 3. 図書館における児童・ヤングアダルト(ティーンズ YA=Young Adult)サービスとは何か？ 4. 地域社会における「子ども」のイメージは何か？ 5. 乳幼児サービス 6. 小学校など児童対象の図書館サービス 7. 中学校や高校など10代のヤングアダルト対象の図書館サービス 8. 児童・YA 図書館活動の歴史 9. 子どもをとりまく大人への図書館活動 10. アウトリーチ・サービスと子どもたちの知的自由 11. 図書館活動をめぐる諸問題ー法律と政策、インターネットなどー 12. 実際の図書館活動推進のための企画・立案、年間計画策定など 13. 児童やYA向けの図書館建築における設備など 14. 児童・YA 図書館活動における現状と将来 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
(参考文献)『児童サービス論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ 11) 日本図書館協会、2009年2月刊。また、授業内で資料配布する。		出席、数度の課題、小テストで評価する。	

03 年度以降	図書及び図書館史	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
電子図書貸出が日本の公共図書館でも始まった。確実に図書の世界は変化している。しかし、図書の歴史の変化は最近のものではなく、すでに3000年前から始まっている。過去を知ることにより未来を見つめ考えていくことがこの科目の目的である。 変化する出版資料を扱う図書館もまた変化し続けている。図書館が人類社会に出現したのは紀元前の話である。そのときから司書は仕事をし続けている。世界を変えたのは本といわれるが、その本を保存し提供し続けてきた司書の役割は何か、そしてこれからの未来に向けて司書はどのような役割と仕事をするのかを考えていきたい。 本の歴史、出版の歴史、本の流通と西洋社会の変化、近代図書館の歴史と現在、将来などについて学び考えていく。 高校までに世界史や日本史、地理の基礎学習をしてきた者は復習し、それを基本に図書あるいは図書館という視点から歴史を見直すことになる。これらの科目を高校までに受講していない者はできるだけ早く歴史・地理の教科書などを読んで基礎知識を身につけておいてほしい。		1. 本・情報と歴史ー世界を変えた本とは？ー 2. 図書館の「本」とは何かー多様な書写材料ー 3. 和書と洋書。出版と保存。 4. 図書館の歴史ー概観ー 5. アレクサンドリア図書館からヨーロッパ中世の図書館へ 6. 十字軍遠征と図書の印刷出版流通 7. 産業革命と市民社会。近代公共図書館の出現 8. 各国（地域）の図書館史 9. アメリカの図書館史 10. 日本の図書館時代前夜 11. 日本の図書館の夜明けー産業博覧会と図書館ー 12. 現代市民社会の公共図書館 13. 図書館の未来 14. 大学図書館貴重書庫見学 (順序は変更する可能性あり) 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で資料を配布する。		出席、数度のレポートで評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	資料特論	担当者	山家 篤夫
講義目的、講義概要		授業計画	
「地方の時代」において、団体自治と住民自治の深化への貢献が図書館に求められている。 図書館法は公立図書館が収集・提供すべき資料として「郷土資料」「地方行政資料」「時事に関する資料」をあげ、文科省は近年、地域資料サービスの重要性を強調している。 これらに関わる資料・情報の収集・活用方法を理解し、サービスの構築を具体事例を見ながら考える。		1. 図書館資料の種類 2. 灰色文献 3. 政府刊行物Ⅰ 4. 政府刊行物Ⅱ 5. 地方行政資料 6. 行政文書と公文書 7. 博物館、文書館、議会図書館についてⅠ 8. 博物館、文書館、議会図書館についてⅡ 9. 地域資料サービスにおけるレファレンス 10. 地図資料の活用 11. 新聞雑誌記事データベースの利用と作成 12. 「市政参考図書館」と政策立案支援サービス 13. 「ガバメント・スピーチ」論と図書館 14. 商用データベース情報 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。 参考文献：三多摩郷土資料研究会、根本彰著『地域資料入門』（日本図書館協会、1999 年）		出席状況 50%・テスト 50%	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	コミュニケーション論	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
・ 講義概要：社会的、文化的コミュニケーションの概念を理解し、コミュニケーション・リテラシー発展・応用を中心に、現代におけるコミュニケーションの特性とその概要について理解する。 ・ 講義概要：①コミュニケーション・プロセスにおける構成要素とその連鎖 ②言語・非言語コミュニケーション ③コミュニケーション理論の応用		1. プロローグ：講義概要説明 2. コミュニケーション・モデル：その1 3. コミュニケーション・モデル：その2 4. コミュニケーション・モデル：その3 5. 言語と非言語：その1 6. 言語と非言語：その2 7. 言語と非言語：その3 8. マズローの三角形 9. ジョハリの窓 10. イノベーションの普及過程 11. グループ討議 12. グループ・プレゼンテーション 13. グループ・プレゼンテーション 14. グループ・プレゼンテーション 15. エピローグ：まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献の中からトピックに関連するページをコピーして使用する。		出席回数／個人レポート／グループ発表とレポート／筆記試験	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	図書館特論	担当者	山家 篤夫
講義目的、講義概要		授業計画	
ユネスコの『公共図書館宣言 1994年』は、「公共図書館は、その利用者があらゆる種類の知識と情報をたやすく入手できるようにする、地域の情報センターである」と規定し、「蔵書およびサービスは、いかなる種類の思想的、政治的あるいは宗教的な検閲にも、また商業的な圧力にも屈してはならない」と述べ、各国・自治体にその履行を求めている。わが国の図書館界も、「図書館の自由に関する宣言」（日本図書館協会1979年改訂）を持ち、国民は公共図書館を利用する権利を公平に持つこと、サービス内容は価値中立であり、利用の秘密が保障されるべきことなどの原則を提示している。 1960年代後半から、わが国の図書館は「宣言」の求める活動に努めてきたが、社会的認知は満足はいくレベルに至ってはいない。具体事例を検討し、国際的準則である「図書館の自由」について理解を深める。		1. 日本の図書館概観Ⅰ 2. 日本の図書館概観Ⅱ 3. 知的自由と公共図書館 概観 4. 蔵書の提供制限Ⅰ 差別的表現 5. 蔵書の提供制限Ⅱ プライバシー侵害表現 6. 蔵書の提供制限Ⅲ 子どもへの提供制限 7. 蔵書の提供制限Ⅳ 政府言論と図書館 8. 蔵書の提供制限Ⅴ その他の非難された表現 9. 資料提供に係わる法令 10. 図書館利用記録（プライバシー）の保護Ⅰ 11. 図書館利用記録の保護Ⅱ 12. 資料提供の対価不徴収（無料原則）について 13. 業務委託、指定管理者制度と職員について 14. 「教育機関」としての図書館 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。 参考文献：塩見昇著『知的自由と図書館』（青木教育叢書、1989年）		出席状況 50%・テスト 50%	

03 年度以降	学校経営と学校図書館	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的： 学校図書館司書教諭は学校図書館長として、資料管理・情報管理や人事管理など経営者としての役割と仕事求められる。学校図書館を活用し、総合的な学習など創造的な授業を構築する教員集団の援助活動も求められている。 この科目では、これらの役割について、内容を把握し、その使命を認識し教育現場で実施できるようになることを学習目的とする。 講義概要： 学校図書館は資料センターとしての機能だけでなく、学校教育を基礎として生涯にわたっての自律的な学びの場として学習センターとしての機能がある。さらに視聴覚資料センター、情報センター、教材開発センター、マルチメディア・センターなど多様な面をもっている。学校教育に不可欠と法的に位置づけられている学校図書館の役割と意義について講義する		1. 学校図書館の理念と教育的意義 2. 学校図書館の発展と課題 3. 教育行政と学校図書館 4. 学校図書館の経営①施設管理 5. 学校図書館の経営②資料管理 6. 学校図書館の経営③人事管理 7. 学校図書館の経営④財政管理、評価等 8. 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修 9. 学校図書館メディアの選択と管理 10. 学校図書館メディアの提供と活用 11. 学校図書館活動と教育活動 12. 調べ学習や「総合的な学習」と学校図書館 13. 図書館の相互協力とネットワーク 14. 学校図書館運営計画の策定 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業時に参考文献リストを配布する。		出席＋授業参加、レポート2回、試験	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	学校図書館メディアの構成	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
学校図書館メディア・センターでの資料管理についての講義・実習。 (1) 資料選択 どのような資料が授業で活用できるのか、どのような資料がどの年齢層あるいはどのような興味関心を持っている子どもに薦められるのか、などについて選択理論をおさえ、専門職としての資料選択力を身につけることを目的とする。 (2) 資料組織化の実習および運用 学校図書館メディア・センターにはどのような資料を所蔵するのか、それをどのように分類・目録化し、データベース化するのかの基本を学び、実習する。		1. 図書館での資料整理の目的と意義 2. 学校図書館メディア資料の種類と特性 3. 資料選択の理論、子どもたちの知的自由 4. 資料選択の実際 5. 日本十進分類法 (NDC) の構造 6. 分類の実際－主題同定作業⇒情報検索語の特定 7. 分類の実際－一般補助表の活用－ 8. 分類の実際－学習に応じた分類 9. 日本目録規則 (NCR) の構造 10. 目録化の実際 図書 11. 目録化の実際 図書以外の資料 12. 目録化の電子化 テキスト・ファイルからデータベース化へ 13. 目録と情報検索との相関関係 14. 目録検索の実際 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本図書館研究会編『図書館資料の目録と分類 増訂第4版』, 2008. 12, 217p, 定価 1,000 円 (税別)		毎回の課題で出席 (授業参加度) をはかる。また、小テストなどで総合評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	学習指導と学校図書館	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
教科指導のなかで、あるいは「総合的な学習」で、学校図書館と図書館資料、情報メディアを活用して、どのような指導が行えるか、指導教案作成をおこなう。さらに、児童・生徒たちにしらべてもらうために、教師自身が情報探索能力を身につけておくことが求められるので、情報探索活動能力(情報リテラシー)養成を目標とする。グループでの討論を基本に、指導計画作成・発表をおこなう。 学習指導における学校図書館のメディア活用についての理解を図る。また、学習指導要領の改訂による「総合的な学習」で、学校図書館の活用が明記されており、その内容にそって、児童・生徒たちの主体的なメディア活用能力の育成を目的とした授業を援助する学校図書館司書教諭の役割を理解し、実践する講義内容とする。		1. 情報探索・情報探求とは？ 2. 学校図書館情報メディア活用能力の育成 3. 学習過程における学校図書館メディア活用の実際 4. 情報探索能力育成 レファレンスと調べ学習 5. 情報探索能力育成/レファレンスツール利用 6. 情報探索能力育成/インターネット利用 7. 情報探索演習 8. 情報探索能力育成のための教育課程 9. 各教科(社会や英語など)で学校図書館メディアセンターを利用する教育指導案作成 10. 「総合的な学習」で学校図書館メディアセンターを利用する教育指導案作成 11. 特別活動などでの学校図書館メディアセンター利用の活動企画 12. 学校図書館メディア・センター管理運営年間計画策定 13. 教師集団との協働 14. PTA/PTO や地域社会との協働 15. 教育指導の実際－各受講者の発表・報告－	
テキスト、参考文献		評価方法	
(参考文献) 宅間紘一著『学校図書館を活用する学び方の指導：課題設定から発表まで』全国学校図書館協議会、2005 ほか。授業で資料を配布する。		出席と授業参加、個人で提出するレポートとグループでの報告と発表などで総合的に評価する。	

03 年度以降	読書と豊かな人間性	担当者	井上 靖代
講義目的、講義概要		授業計画	
授業の概要及び目的: 読む・書くという意味での読書をいかに子どもたちに楽しみながら、自分の言葉で自分自身を表現できるようにするかを実際に子どもの本を読みながら、授業として構築していく。講義と実習を組み合わせる。 この科目の目標は、各受講者が「読む」(リーディング)と「書く」(リテラシー)という読書力養成を目的とする授業を構築し、学習者に教授できるようになることにある。「読む」「書く」ことを伝える授業案が作成できるようになることを第一段階とする。その基本として司書教諭となる受講者が「読書」していることが出発点となる。 大量に読むことではなく、どのように読み解くかを授業で学ぶ。また、どのように伝えていくかを学ぶ。 言語教育・リテラシー学習の基本の一つである子どもの読書を推進するため、学校教育のなかで言語教育担当教員のみならず、すべての教員の調整役＝コーディネーターとしての学校図書館司書教諭は重要な役割を担っている。この科目ではその役割をはたすため、どのような読書資料があるのか、そしてその読書資料をどのように言語教育やリテラシー教育に活用するかを学び、かつ学校内外での調整役としての役割と責任を学習する。		1. 子どもの読書状況 2. 読む・書くという識字力・読書力について考える 3. 子どもの発達心理・読書心理、読書傾向と知的好奇心 4. 読書資料としての絵本 5. 読書資料としての児童文学 6. 読書資料としてのノンフィクション 7. 読書資料としてのヤングアダルト文学 8. 読書指導のためのプログラム検討 9. 読者育成のための教案作成 10. 「読みて」から「書きて」育成のための教案作成 11. 家庭での読書 12. 地域社会や公共図書館との連携による読書振興 13. 子どもの読書と知的自由 14. 子どもの読書をめぐる法政策 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業開始時に参考資料リストを配布する。 および児童向け 10 代向けの図書館資料を読んでもらうことになる。		出席点＋授業参加度、小レポート、試験	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降	情報メディアの活用	担当者	福田 求
講義目的、講義概要		授業計画	
【目的】学校教育においてその重要性が再認識され新たな役割を担うことが期待され始めた学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。 【概要】まず、現在までの情報メディアの発達と変化を検討し、現代社会が高度情報社会であることを確認する。 また、各種情報メディアの特性について概観した後、学校教育の目的や状況に応じてどのようなメディアを選択すべきかを考察する。 次に、情報教育を情報の発信・収集・交換という3つの視点から整理し、それぞれの具体的なあり方を実際の情報メディアを用いつつ理解する。 そして、情報メディアの取り扱いについて学校において注意すべき点を、有害性／安全性や著作権との関わりから議論し、最後に講義全体のまとめを行う。		1 オリエンテーション：年間予定、授業方法等の注意事項について説明。「情報」について。 2 高度情報社会と学校教育：情報メディアの特性と選択 3 学校教育における視聴覚メディアとコンピュータの活用 4 インターネットによる情報検索と発信 (1) 5 インターネットによる情報検索と発信 (2) 6 インターネットによる情報検索と発信 (3) 7 前半部分のまとめ；情報メディアの活用とは：質問受付 8 オフラインデータベースと情報検索 (1) 9 オフラインデータベースと情報検索 (2) 10 情報検索以外の情報収集 11 最新の情報メディア (1) 12 最新の情報メディア (2) 13 学校での取り扱いに注意すべき情報 14 学校図書館メディアと著作権 15 授業全体のまとめ：質問受付	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜紹介する。授業の性格上、印刷メディアのみでなく電子メディアを多数紹介する。		期末試験（筆記試験またはレポート）。これに平常点を加味する。	

シラバス 免許課程

2012年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1663



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	